

# データヘルス計画

## 第3期計画書

---

最終更新日：令和6年03月19日

石川県自動車販売店健康保険組合

# STEP 1-1 基本情報

組合コード	50112
組合名称	石川県自動車販売店健康保険組合
形態	総合
業種	飲食料品以外の小売業

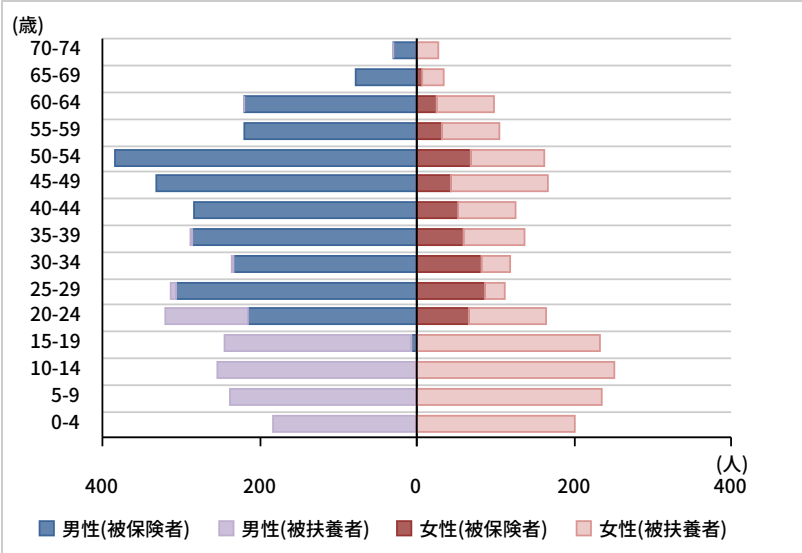
	令和6年度見込み	令和7年度見込み	令和8年度見込み
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保 険者を除く	3,115名 男性83.3% (平均年齢43.0歳) * 女性16.7% (平均年齢38.4歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *
特例退職被保険者数	0名	-名	-名
加入者数	5,799名	-名	-名
適用事業所数	22カ所	-カ所	-カ所
対象となる拠点数	180カ所	-カ所	-カ所
保険料率 *調整を含む	97.0‰	-‰	-‰

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	0	0	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-
事業主	産業医	0	0	-	-	-	-
	保健師等	0	0	-	-	-	-

		第3期における基礎数値 (令和4年度の実績値)	
特定健康診査実施率 (特定健康診査実施者数÷ 特定健康診査対象者数)	全体	1,740 / 2,167 = 80.3 %	
	被保険者	1,548 / 1,683 = 92.0 %	
	被扶養者	192 / 484 = 39.7 %	
特定保健指導実施率 (特定保健指導実施者数÷ 特定保健指導対象者数)	全体	45 / 418 = 10.8 %	
	被保険者	43 / 409 = 10.5 %	
	被扶養者	2 / 9 = 22.2 %	

		令和6年度見込み		令和7年度見込み		令和8年度見込み	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	4,853	1,558	-	-	-	-
	特定保健指導事業費	1,290	414	-	-	-	-
	保健指導宣伝費	3,343	1,073	-	-	-	-
	疾病予防費	40,400	12,970	-	-	-	-
	体育奨励費	0	0	-	-	-	-
	直営保養所費	0	0	-	-	-	-
	その他	0	0	-	-	-	-
	小計 …a	49,886	16,015	0	-	0	-
	経常支出合計 …b	1,706,320	547,775	-	-	-	-
	a/b×100 (%)	2.92		-	-	-	-

令和6年度見込み



令和7年度見込み



令和8年度見込み



## 男性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	8人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	214人	25～29	306人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	233人	35～39	285人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	284人	45～49	331人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	384人	55～59	220人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	219人	65～69	77人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	29人			70～74	-人			70～74	-人		

## 女性（被保険者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	0人	5～9	0人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	0人	15～19	1人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	66人	25～29	87人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	82人	35～39	59人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	52人	45～49	43人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	69人	55～59	33人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	25人	65～69	6人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	1人			70～74	-人			70～74	-人		

## 男性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	182人	5～9	237人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	254人	15～19	237人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	105人	25～29	6人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	2人	35～39	2人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	0人	45～49	0人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	0人	55～59	0人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	1人	65～69	0人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	1人			70～74	-人			70～74	-人		

## 女性（被扶養者）

令和6年度見込み				令和7年度見込み				令和8年度見込み			
0～4	200人	5～9	236人	0～4	-人	5～9	-人	0～4	-人	5～9	-人
10～14	252人	15～19	234人	10～14	-人	15～19	-人	10～14	-人	15～19	-人
20～24	99人	25～29	25人	20～24	-人	25～29	-人	20～24	-人	25～29	-人
30～34	37人	35～39	77人	30～34	-人	35～39	-人	30～34	-人	35～39	-人
40～44	72人	45～49	124人	40～44	-人	45～49	-人	40～44	-人	45～49	-人
50～54	93人	55～59	74人	50～54	-人	55～59	-人	50～54	-人	55～59	-人
60～64	72人	65～69	27人	60～64	-人	65～69	-人	60～64	-人	65～69	-人
70～74	27人			70～74	-人			70～74	-人		

### 基本情報から見える特徴

1. 自動車のメインディーラーで構成する小規模の総合健保組合である。
2. 適用事業所は少なく県内にあるが、販売店等が県内各地及び他県（富山県、福井県）にまたがり多数点在している。
3. 被保険者数の構成は、40歳・50歳代が多く、男性が83%と大多数を占めている。
4. 加入者の平均年齢も年々上昇し、前期高齢者加入者数も年々増加している。
5. 当健保組合には、医療専門職が不在である。

## STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

### 保健事業の整理から見える特徴

#### 事業の一覧

##### 職場環境の整備

保健指導宣伝	健康相談、健保制度・保健衛生等に関するパンフレット等の配布
--------	-------------------------------

##### 加入者への意識づけ

保健指導宣伝	機関誌発行
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	前期高齢者向け電話保健指導

##### 個別の事業

特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（任継被保険者・被扶養者）
特定保健指導事業	特定保健指導（被保険者）
特定保健指導事業	特定保健指導（任継被保険者・被扶養者）
保健指導宣伝	後発医薬品の差額通知
保健指導宣伝	育児情報誌の配布
疾病予防	ガン（肺、胃、肝、大腸）撲滅健診
疾病予防	乳ガン検査
疾病予防	人間ドック
疾病予防	脳ドック
疾病予防	インフルエンザ予防接種補助
疾病予防	家族で取り組むかぜ&むし歯予防（つよい子になるぞキャンペーン）
疾病予防	禁煙サポート事業（禁煙外来治療費補助金）

##### 事業主の取組

1	疾病予防
---	------

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者				事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
職場環境の整備												
保健指導宣伝	1,2,5	健康相談、健康制度・保健衛生等に関するパンフレット等の配布	事業主における従業員の健康状況の特徴の認知や、健保組合が実施する必要な健康対策への協力・参加を図る。	全て	男女	18～74	加入者全員	30	6月に事業所あて「事業別保健事業実施状況一覧表」を送付。3月に「健康スコアリングレポート」を送付。4月に職場環境対策として「受動喫煙対策チラシ」等を配布。機関誌の4月「春号」、8月「夏号」に健康情報等の記事を掲載。なお、「健康管理事業推進委員会」はコロナウイルス感染症により開催せず。	事務担当者及び健康管理事業推進委員等の事業への理解。	新型コロナウイルス感染症により計画通りの事業が実施出来なかった。	4
加入者への意識づけ												
保健指導宣伝	5	機関誌発行	情報発信、健康意識の醸成を図る。	全て	男女	18～74	加入者全員	1,058	4月「春号」、8月「夏号」として、年2回事業所経由にて被保険者全員に会社経由にて配布し、情報発信が出来た。	事務担当者の広報誌への理解。健保組合が実施する健康づくり事業等の保健事業の周知。データヘルス計画等の事業運営の周知に寄与。	年2回であることから、タイムリーな情報提供が不足することもある。家族（被扶養者）への情報伝達の不足が懸念される。	4
	5	医療費通知	正しい保険診療の受け方への注意及び健康づくりへの意識の醸成及び保険医療費の適正化対策を図る。	全て	男女	0～74	基準該当者	39	医療費通知を年4回（6月、9月、12月、3月）に、9,613件通知した。	事業所担当者の医療費通知への理解。3ヶ月毎の通知。	被保険者から被扶養者への周知不足。	4
	2,4,5,6	前期高齢者向け電話保健指導	「将来医療費の削減」及び「健康長寿の意識付け」。「前期高齢者医療費」の削減。	全て	男女	65～74	基準該当者	304	10月から該当者57名に対し調査書を送付し、調査書の回答者11名のうち6名に対し電話保健指導を実施した。	対象者自宅への委託事業者から直接送付。調査書の回答依頼のお願い文書の送付。「健康長寿の意識付け」及び「医療費への意識付け」が図られた。	電話保健指導者数の減少。	3
個別の事業												
特定健康診査事業	3	特定健診（被保険者）	特定健診の受診率（100%）を目指すため、事業主検診機関からの検診結果のデータ提供促進（直接データ提供率100%）を目指す。	全て	男女	40～74	加入者全員	157	対象人数 1,694名 データ受領人数 1,546名 実施率 91.3%	・健診結果の提供に関する必要性が理解され始めた。 ・健診機関から直接データ提供が理解され始め健診機関からの提供が増加した。（データ提供料の組合負担）	・健診未受診者の受診勧奨（健診の必要性の一部理解不足。）	4
	3	特定健診（任継被保険者・被扶養者）	特定健診の受診率（50%）に向け、受診券の100%送付を目指す。	全て	男女	40～74	加入者全員	2,064	【任意継続被保険者】 発行人数 15名 受診者数 4名 実施率 26.7% 【被扶養者】 発行人数 512名 受診者数 192名（内25名は全国巡回健診） 実施率 37.5%	・被扶養者について、結果提供及び受診の催告を実施した。 ・全国巡回健診について事前案内及び受診督促を実施し受診者数の向上を図った。 ・パンフレットの配布	・健診結果の提供に関する必要性の理解不足。（理解させる工夫不足。） ・対象者の検診に対する理解不足。（理解させる工夫不足。）	3
特定保健指導事業	4	特定保健指導（被保険者）	特定保健指導の実施率を向上し、重症化予防のための生活習慣病リスク保有者の生活習慣、健康状態の改善実施者の健康改善を図り特定保健指導の該当率10%以上を目指す。	全て	男女	40～74	基準該当者	417	【動機付け支援】 対象者数 61名 実施者数 12名 実施率 19.7% 【積極的支援】 対象者数 270名 実施者数 31名 実施率 11.5%	・健診機関からの積極的なアプローチ ・事業所からの受診勧奨	対象者名簿を事業所及び健診機関に送付し、健診機関から事業所への働きかけを行うものの、対象者の保健指導に対する理解不足。（理解させる工夫不足。）	2

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業目標	対象者				事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	4	特定保健指導(任継被保険者・被扶養者)	特定保健指導の実施率の向上し、重症化予防のための生活習慣病リスク保有者の生活習慣、健康状態の改善実施者の健康改善を図り特定保健指導の該当率10%以上を目指す。	全て	男女	40～74	基準該当者	417	【動機付け支援】 対象者数 3名(内被扶養者3名) 実施者数 2名 実施率 66.7% 【積極的支援】 対象者数 1名(内被扶養者1名) 実施者数 0名 実施率 0%	・委託事業者(全国巡回健診)による特定健診終了後の同時特定保健指導の実施。	・対象者の保健指導に対する理解不足。(理解させる工夫不足。) ・保健指導への参加機会の不足。	3
保健指導宣伝	7	後発医薬品の差額通知	後発医薬品の使用促進、調剤医療費の適正化対策を図るため。	全て	男女	0～74	加入者全員	0	・年4回(6月・9月・12月・3月)298件通知 ・後発医薬品の使用割合87.61%(3月診療分)	・事業所へ送付し、事業所から被保険者へ被扶養者分とも配布。 ・3ヶ月毎に年間(12ヶ月分)を通知。	・被保険者から被扶養者への周知不足。	4
	5	育児情報誌の配布	次世代の生活習慣病予防(妊娠前、子供の頃からの生活習慣病予防や保険医療費の適正化対策)として。	全て	男女	0～74	基準該当者	422	・雑誌配布該当者数 91名	・提出された届出に基づき事業者より直接自宅に配布した。 ・雑誌内容が適時のもので構成され、興味を持つように作成されている。	・効果の検証。	4
疾病予防	3	ガン(肺、胃、肝、大腸)撲滅健診	悪性新生物(ガン)の早期発見、早期治療を図るため。	全て	男女	35～65	基準該当者	8,673	対象者数 537名 受診者数 311名 受診率 57.9%	・健保組合並びに事業所及び健診機関との連携が図られたこと。	・特定健康診査との同時受診の促進 ・健診機関の検診希望者に対する健診実施対応者数の不足。	3
	3	乳ガン検査	悪性新生物(乳がん)の早発見、早期治療を図るため。	全て	女性	35～65	基準該当者	212	対象者数 158名 受診者数 63名 受診率 39.9%	費用の全額補助	子宮がん検査を含めた検査の実施	3
	3	人間ドック	特定健診の受診率の向上、健康状態の確認、疾病の早期発見、早期治療を図るため、受診の促進を図り、受診データの提供率100%を目指す。	全て	男女	35～74	加入者全員	4,518	対象者数 2,286名 受診者数 266名 受診率 11.6%	・各事業所毎の利用状況資料を作成配布。	・リピーターが多く、新規受診者が少ない。 ・自己負担が高い。	2
	3	脳ドック	健康状態の確認、疾病の早期発見、早期治療を図るため。	全て	男女	40～74	加入者全員	266	対象者数 2,466名 受診者数 18名 受診率 0.7%	・生活習慣病である脳血管疾患への早期対応 ・各事業所毎の利用状況資料を作成配布。	・受診人数が少ない。 ・健診の必要性の低意識。 ・周知不足。	1
	3	インフルエンザ予防接種補助	インフルエンザウィルスへの感染による疾病の重症化予防及び感染の拡大の防止を図るため。	全て	男女	0～74	加入者全員	3,546	接種者数 1,805名(事業計画数3,000名) 実施率 60.2% (対象人数 5,943名 30.4%)	・事業内容については概ね加入者に浸透している。	・加入者数の30.4%であり、さらに接種者数の増加を図る必要がある。 ・インフルエンザの発症減及び新型コロナウイルス感染症の予防接種により、接種者数が減少。	-
	2,5	家族で取り組むかぜ&むし歯予防(つよい子になるぞキャンペーン)	かぜの発症予防や健康づくりを家族で取り組み、併せて健康保険の正しい利用を啓発させる。若年齢層の医療費削減対策。	全て	男女	2～9	基準該当者	376	9月に2～9歳(小学三年生)の該当者693名(513世帯)に対し、3ヶ月間の「手洗い・うがい・歯みがき」をした記録カレンダーと健康啓発の冊子を送付。達成者52名。アンケートの提出31件あり。	対象者自宅への委託事業者からの直接配布。コロナウイルス感染症による「手洗い・うがい・歯みがき」の重要性の理解。	・3ヶ月間と実施期間が長く、途中での脱退者が多い。 ・効果の検証。	3
1,5	禁煙サポート事業(禁煙外来治療費補助金)	肺がん等の病気になる危険性の縮小及び職場での受動喫煙対策としての、禁煙達成のための支援。	全て	男女	20～74	被保険者	54	禁煙チャレンジ申込者数 1名 禁煙チャレンジ達成者数 1名	・健康増進法の施行 ・パンフレットの配布	・禁煙チャレンジの周知及び申込者数の増を図る。	1	

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

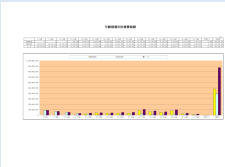

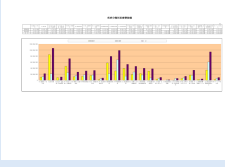
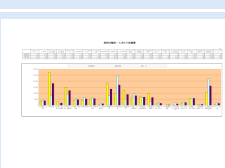


注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%



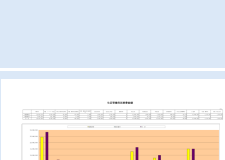




事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同 実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
疾病予防	-	-	-	~	-	-	-	-



## STEP 1-3 基本分析

### 登録済みファイル一覧

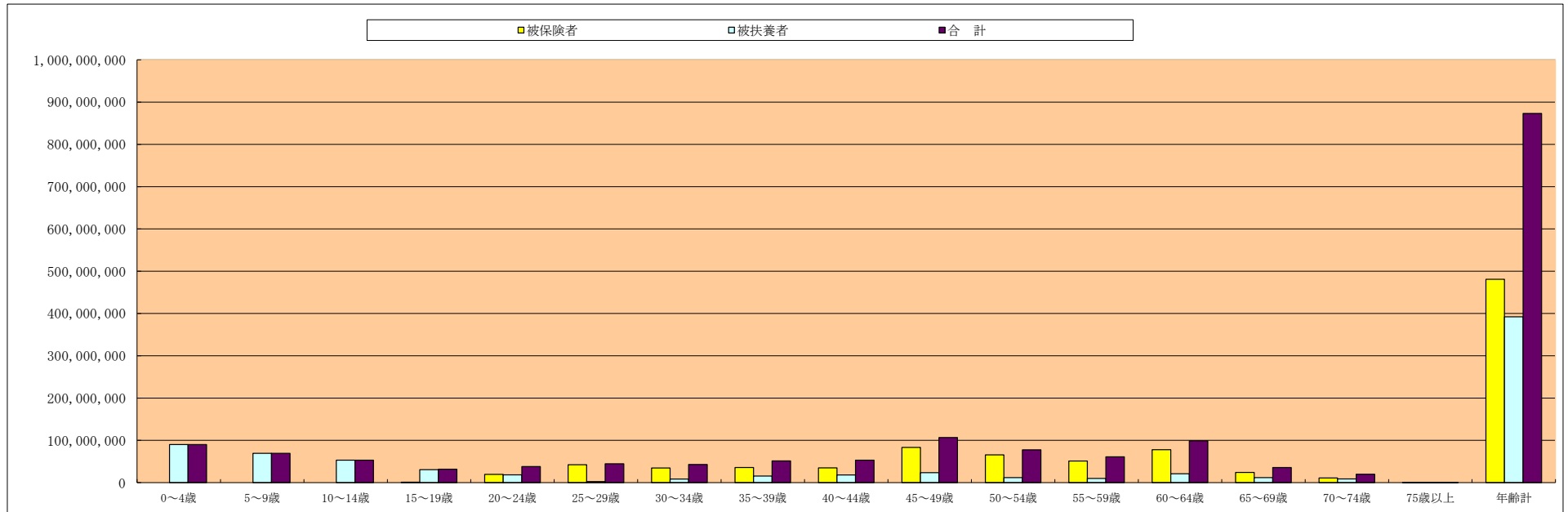
記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		年齢階層別医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費の総額は「45歳～49歳」が最も高く、次に、高年齢層の「60歳～65歳」、「若年齢層」の「0歳～4歳」の順に高い。</li> <li>・被保険者は「45歳～49歳」が最も高く、次に「60歳～65歳」、「50歳～55歳」の順に高い。</li> <li>・被扶養者は「0歳～4歳」が最も高く、次に「5歳～9歳」、「10歳～14歳」の順に高い。</li> </ul>
イ		年齢階層別医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人当たり医療費は被保険者、被扶養者とも高年齢層の医療費が高い。</li> <li>・被保険者は、「70歳～74歳」、「65歳～69歳」、「60歳～64歳」の順に高い。</li> <li>・被扶養者は、「65歳～69歳」、「60歳～64歳」、「70歳～74歳」の順に高い。</li> </ul>
ウ		疾病分類別医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾病分類別医療費総額については、「新生物」、「呼吸器系疾患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高い。</li> <li>・被保険者の疾病分類別医療費総額については、「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に医療費が高い。</li> <li>・被扶養者の疾病分類別医療費総額については、「呼吸器系疾患」、「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。</li> </ul>
エ		疾病分類別医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾病分類別一人当たり医療費では、「新生物」、「呼吸器系疾患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高い。</li> <li>・被保険者の疾病分類別一人当たり医療費では、「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に医療費が高い。</li> <li>・被扶養者の疾病分類別一人当たり医療費では、「呼吸器系疾患」、「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。</li> </ul>
オ		疾病（特定疾患）別医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪性新生物の医療費総額では、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「乳房」の医療費が高い。</li> <li>・被保険者は、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「男性生殖器」の医療費が高い。</li> <li>・被扶養者は、「乳房」、「消化器」、「女性生殖器」の医療費が高い。</li> </ul>
カ		疾病（特定疾患）別医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪性新生物の一人当たり医療費では、悪性新生物の医療費総額と同様に、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「乳房」の医療費が高い。</li> <li>・被保険者、被扶養者の悪性新生物の一人当たり医療費についても、悪性新生物の医療費総額と同様となっている。</li> </ul>

キ		疾病（特定疾患）別医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器系疾患の医療費総額は、「その他の型の心疾患」、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環疾患」の医療費が高い。</li> <li>・被保険者の医療費総額は、「その他の型の心疾患」、「動脈、細動脈及び毛細血管の疾患」、「肺性心疾患及び肺循環疾患」の医療費が高い。</li> <li>・被扶養者の医療費総額は、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環疾患」、「その他の型の心疾患」の医療費が高い。</li> </ul>
ク		疾病（特定疾患）別医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器系疾患一人当たり医療費は循環器系疾患の医療費総額と同様に、「その他の型の心疾患」、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」が高い。</li> <li>・被保険者の循環器系疾患の一人当たり医療費についても、循環器系疾患の医療費総額と同様に、「その他の型の心疾患」、「動脈、細動脈及び毛細血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」が高い。</li> <li>・被扶養者の循環器系疾患一人当たり医療費は循環器系疾患の医療費総額と同様に、「その他の型の心疾患」、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」が高い。</li> </ul>
ケ		疾病（特定疾患）別医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病の医療費総額は、「糖尿病」、「高血圧症」、「人工透析」の医療費が高い。</li> <li>・被保険者の生活習慣病の医療費総額は、「糖尿病」、「人工透析」、「高血圧症」、の医療費が高い。</li> <li>・被扶養者の、「糖尿病」、「高血圧症」、「高脂血症」の医療費が高い。</li> </ul>
コ		疾病（特定疾患）別医療費	医療費・患者数分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病一人当たり医療費は生活習慣病の医療費総額と同様に、「糖尿病」、「高血圧症」、「人工透析」の医療費が高い。</li> <li>・被保険者の生活習慣病一人当たり医療費は生活習慣病の医療費総額と同様に、「糖尿病」、「人工透析」、「高血圧症」、の医療費が高い。</li> <li>・被扶養者の生活習慣病一人当たり医療費は生活習慣病の医療費総額と同様に、「糖尿病」、「高血圧症」、「高脂血症」の医療費が高い。</li> </ul>
サ		特定健診・保健指導の実施状況	特定健診分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診の実施率は被扶養者の実施率が低い。</li> </ul>
シ		特定健診・保健指導の実施状況	特定保健指導分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定保健指導の被保険者・被扶養者とも実施率が低い。</li> </ul>
ス		後発医薬品の使用状況	後発医薬品分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で80%以上の使用状況であるが、被保険者の「20歳～24歳」、「25歳～29歳」の使用状況が低い。</li> </ul>

## 年齢階層別医療費総額

(円)

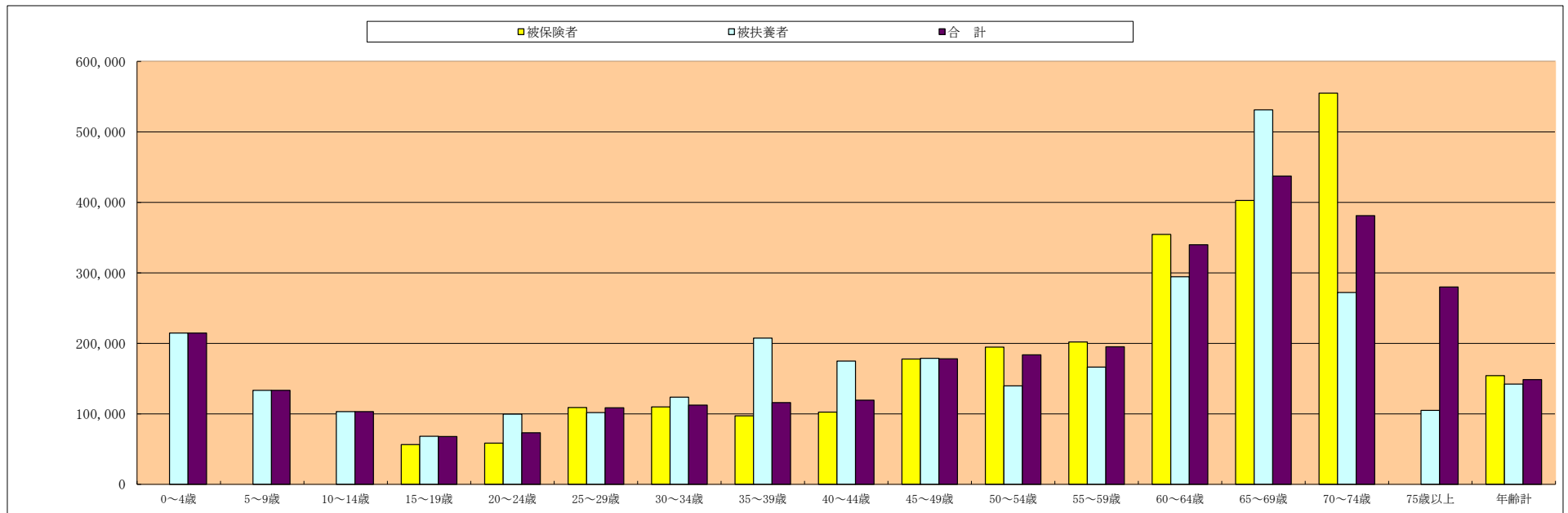
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	年齢計
被保険者	0	0	0	992,440	19,582,450	42,206,390	34,583,690	35,690,340	34,972,610	83,140,280	65,718,090	51,120,720	77,954,920	23,927,860	11,054,330	14,600	480,958,720
被扶養者	90,012,970	69,176,640	53,192,760	30,689,460	18,358,320	2,392,870	8,356,170	15,628,760	18,024,820	23,374,400	11,806,440	9,942,140	21,013,390	11,689,060	8,640,900	8,740	392,307,840
合計	90,012,970	69,176,640	53,192,760	31,681,900	37,940,770	44,599,260	42,939,860	51,319,100	52,997,430	106,514,680	77,524,530	61,062,860	98,968,310	35,616,920	19,695,230	23,340	873,266,560



## 年齢階層別一人当たり医療費

(円)

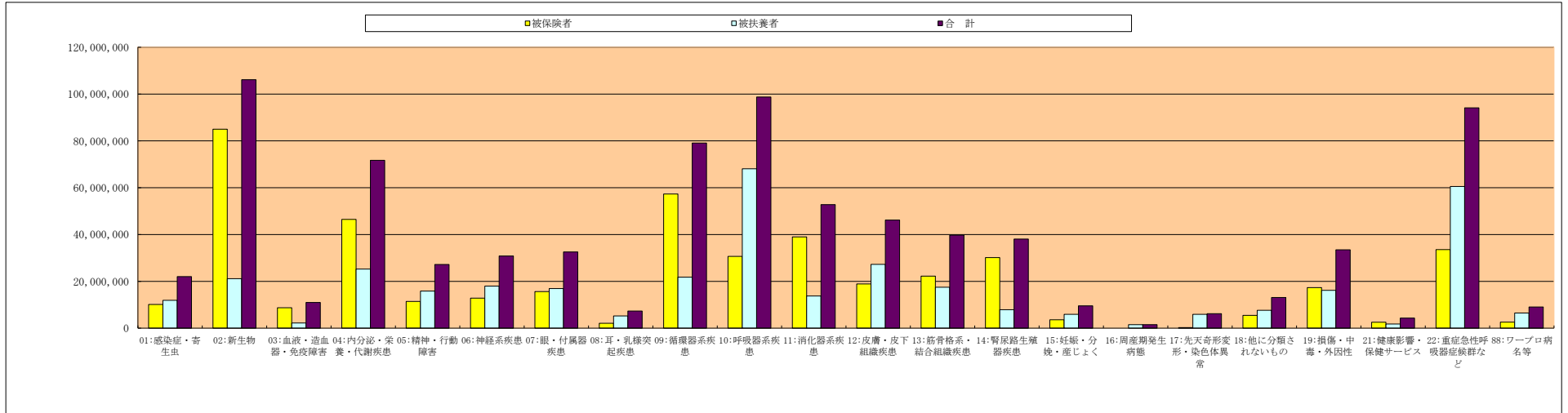
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	年齢計
被保険者	0	0	0	56,442	58,470	109,013	109,906	97,206	102,559	177,872	194,720	202,058	354,609	402,713	555,029	0	154,174
被扶養者	214,657	133,438	103,237	68,249	99,638	101,824	123,642	207,461	174,857	178,772	139,721	166,396	294,580	531,321	272,154	104,880	142,317
合計	214,657	133,438	103,237	67,805	73,080	108,602	112,334	115,975	119,341	178,069	183,707	195,245	339,903	437,465	381,198	280,080	148,612



### 疾病分類別医療費総額

(円)

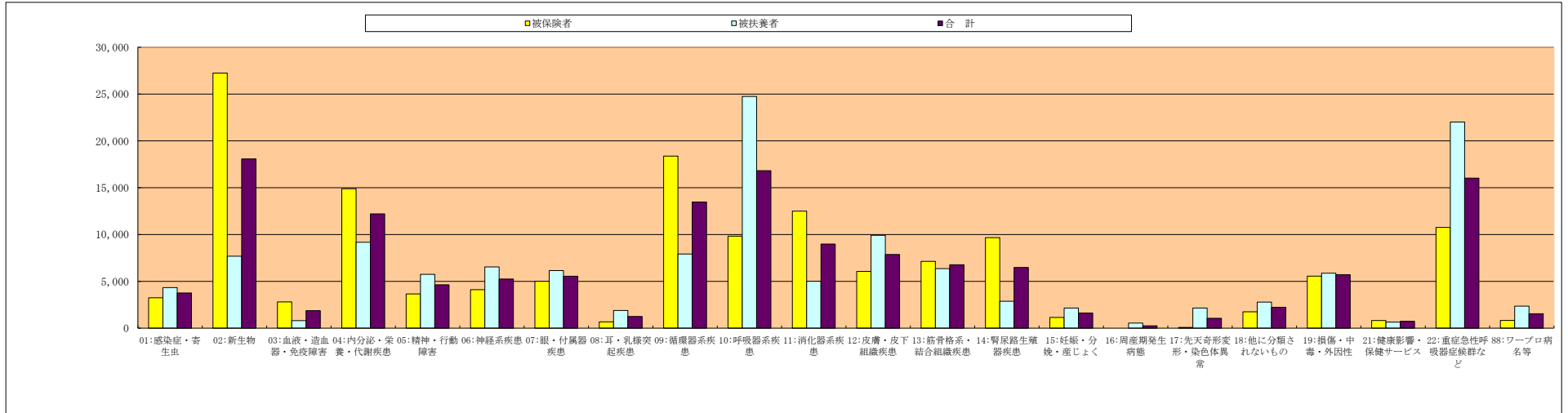
	01:感染症・寄生虫	02:新生物	03:血液・造血器・免疫障害	04:内分泌・栄養・代謝疾患	05:精神・行動障害	06:神経系疾患	07:眼・付属器疾患	08:耳・乳突突起疾患	09:循環器系疾患	10:呼吸器系疾患	11:消化器系疾患	12:皮膚・皮下組織疾患	13:筋骨格系・結合組織疾患	14:腎尿路生殖器疾患	15:妊娠・分娩・産じょく	16:周産期発生障害	17:先天奇形変異・染色体異常	18:他に分類されないもの	19:損傷・中毒・外因性	21:健康影響・保健サービス	22:重症急性呼吸器症候群など	88:ワープロ病名等
被保険者	10,123,900	84,981,790	8,745,430	46,468,040	11,406,730	12,832,570	15,628,830	2,109,890	57,325,980	30,675,050	38,991,730	18,904,150	22,246,890	30,150,210	3,585,560	0	261,350	5,467,170	17,339,040	2,532,250	33,567,880	2,572,370
被扶養者	11,921,140	21,140,800	2,215,780	25,228,300	15,823,480	17,984,210	16,917,110	5,214,880	21,771,580	68,069,350	13,772,180	27,269,650	17,509,100	7,905,800	5,931,820	1,506,920	5,925,410	7,659,410	16,146,150	1,787,880	60,540,220	6,487,280
合計	22,045,040	106,122,590	10,961,210	71,696,340	27,230,210	30,816,780	32,545,940	7,324,770	79,097,560	98,744,400	52,763,910	46,173,800	39,755,990	38,056,010	9,517,380	1,506,920	6,186,760	13,126,580	33,485,190	4,320,130	94,108,100	9,059,650



### 疾病分類別一人当たり医療費

(円)

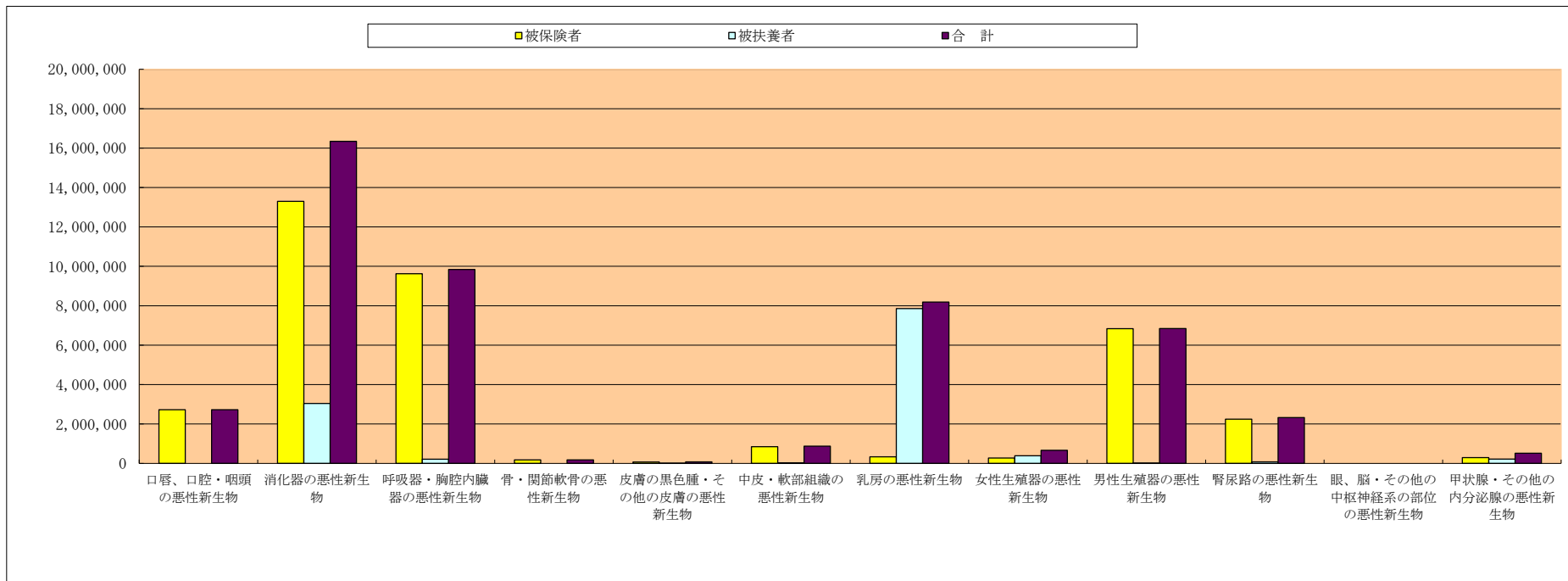
	01:感染症・寄生虫	02:新生物	03:血液・造血器・免疫障害	04:内分泌・栄養・代謝疾患	05:精神・行動障害	06:神経系疾患	07:眼・付属器疾患	08:耳・乳腺突起疾患	09:循環器系疾患	10:呼吸器系疾患	11:消化器系疾患	12:皮膚・皮下組織疾患	13:筋骨格系・結合組織疾患	14:腎臓泌尿器系疾患	15:妊娠・分娩・産じょく	16:周産期発生障害	17:先天奇形変形・染色体異常	18:他に分類されないもの	19:損傷・中毒・外因性	21:健康影響・保健サービス	22:重症急性呼吸器疾患等	88:ワープロ病名等
被保険者	3,245	27,238	2,803	14,894	3,656	4,113	5,009	676	18,374	9,832	12,498	6,059	7,131	9,664	1,149	0	84	1,752	5,558	812	10,759	824
被扶養者	4,334	7,686	806	9,172	5,753	6,538	6,150	1,896	7,915	24,746	5,007	9,914	6,365	2,874	2,156	548	2,154	2,785	5,870	650	22,009	2,358
合計	3,755	18,077	1,867	12,213	4,638	5,249	5,544	1,248	13,473	16,820	8,988	7,865	6,772	6,482	1,621	257	1,054	2,236	5,704	736	16,030	1,543



## 悪性新生物医療費総額

(円)

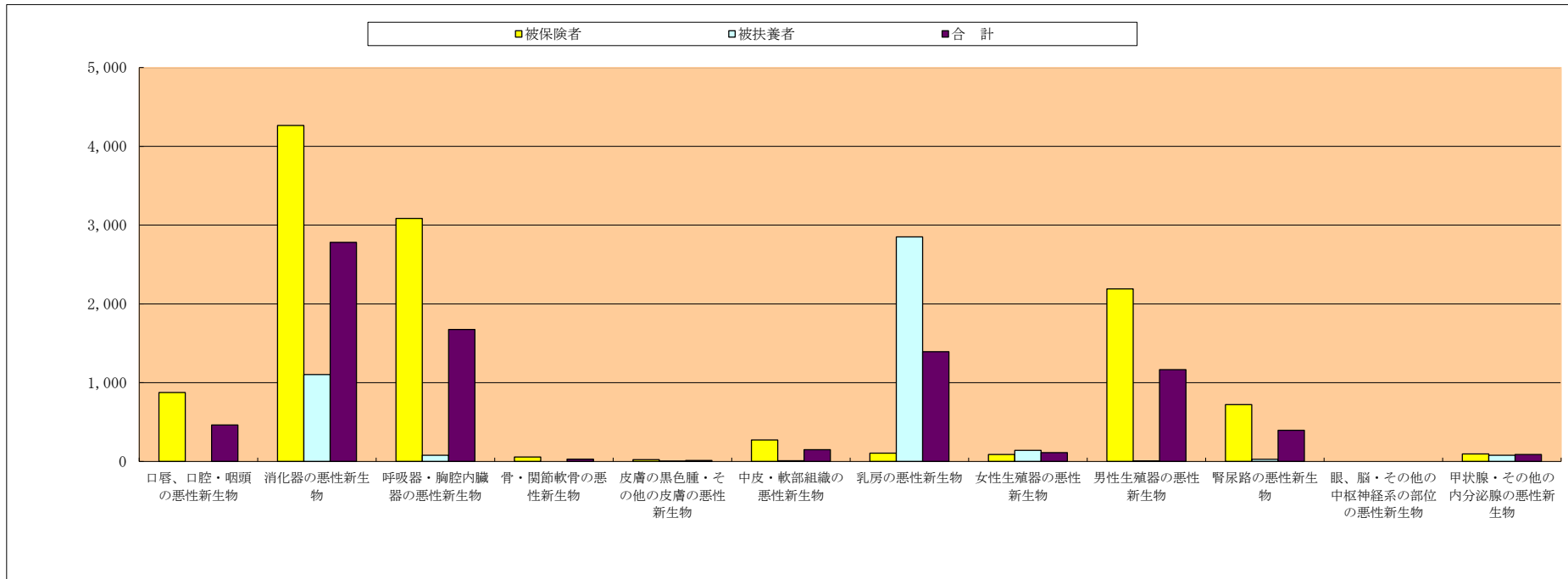
	口唇、口腔・咽頭の悪性新生物	消化器の悪性新生物	呼吸器・胸腔内臓器の悪性新生物	骨・関節軟骨の悪性新生物	皮膚の黒色腫・その他の皮膚の悪性新生物	中皮・軟部組織の悪性新生物	乳房の悪性新生物	女性生殖器の悪性新生物	男性生殖器の悪性新生物	腎尿路の悪性新生物	眼、脳・その他の中枢神経系の部位の悪性新生物	甲状腺・その他の内分泌腺の悪性新生物
被保険者	2,728,110	13,300,970	9,625,450	177,980	72,210	847,970	331,710	274,360	6,835,170	2,248,210	0	297,480
被扶養者	0	3,039,490	215,260	0	4,990	26,020	7,855,820	389,830	10,610	77,000	0	217,380
合計	2,728,110	16,340,460	9,840,710	177,980	77,200	873,990	8,187,530	664,190	6,845,780	2,325,210	0	514,860



## 悪性新生物一人当たり医療費

(円)

	口唇、口腔・咽頭の悪性新生物	消化器の悪性新生物	呼吸器・胸腔内臓器の悪性新生物	骨・関節軟骨の悪性新生物	皮膚の黒色腫・その他の皮膚の悪性新生物	中皮・軟部組織の悪性新生物	乳房の悪性新生物	女性生殖器の悪性新生物	男性生殖器の悪性新生物	腎尿路の悪性新生物	眼、脳・その他の中枢神経系の部位の悪性新生物	甲状腺・その他の内分泌腺の悪性新生物
被保険者	875	4,264	3,085	57	23	272	106	88	2,191	721	0	95
被扶養者	0	1,103	78	0	2	9	2,850	141	4	28	0	79
合計	464	2,781	1,675	30	13	149	1,393	113	1,165	396	0	88

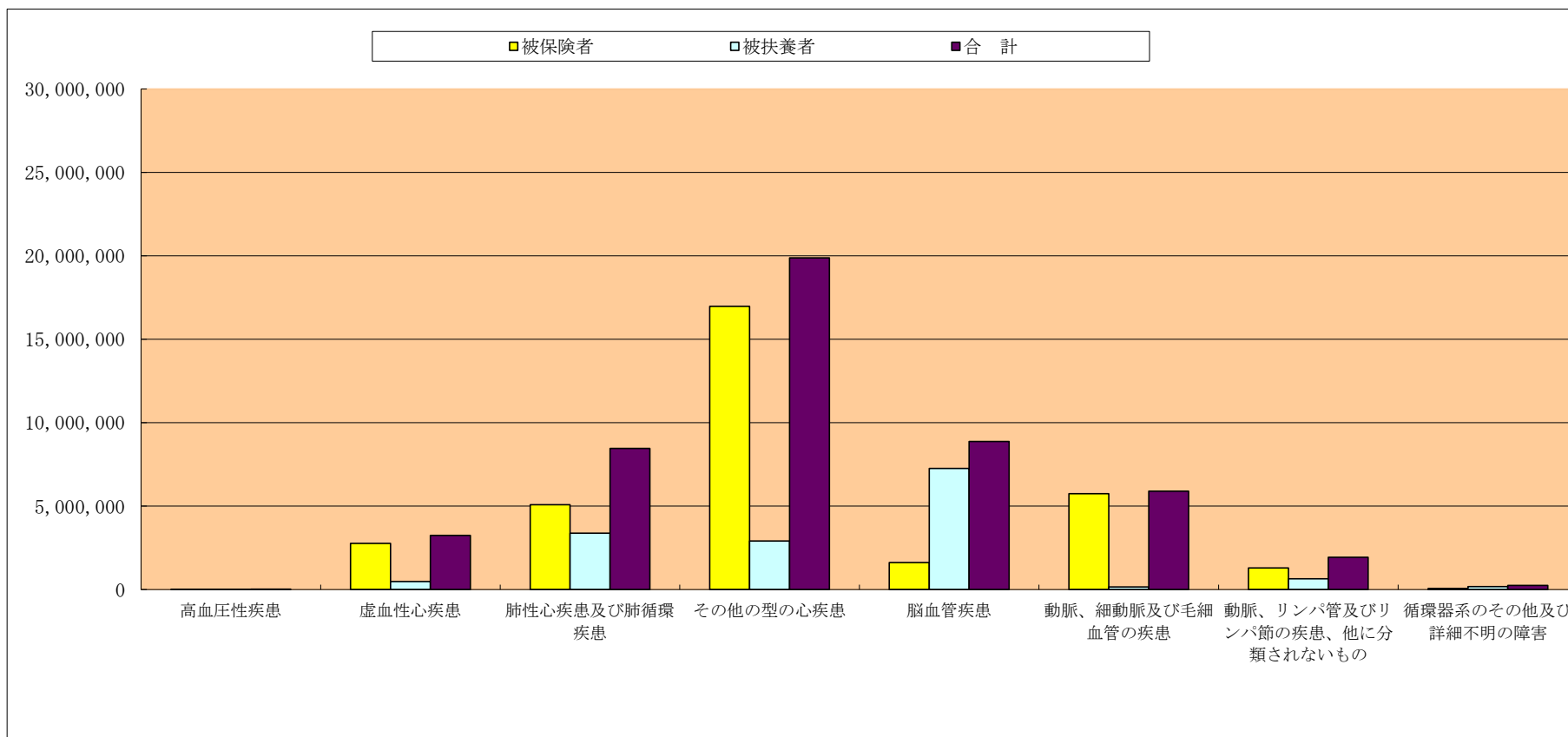




## 循環器系疾患医療費総額

(円)

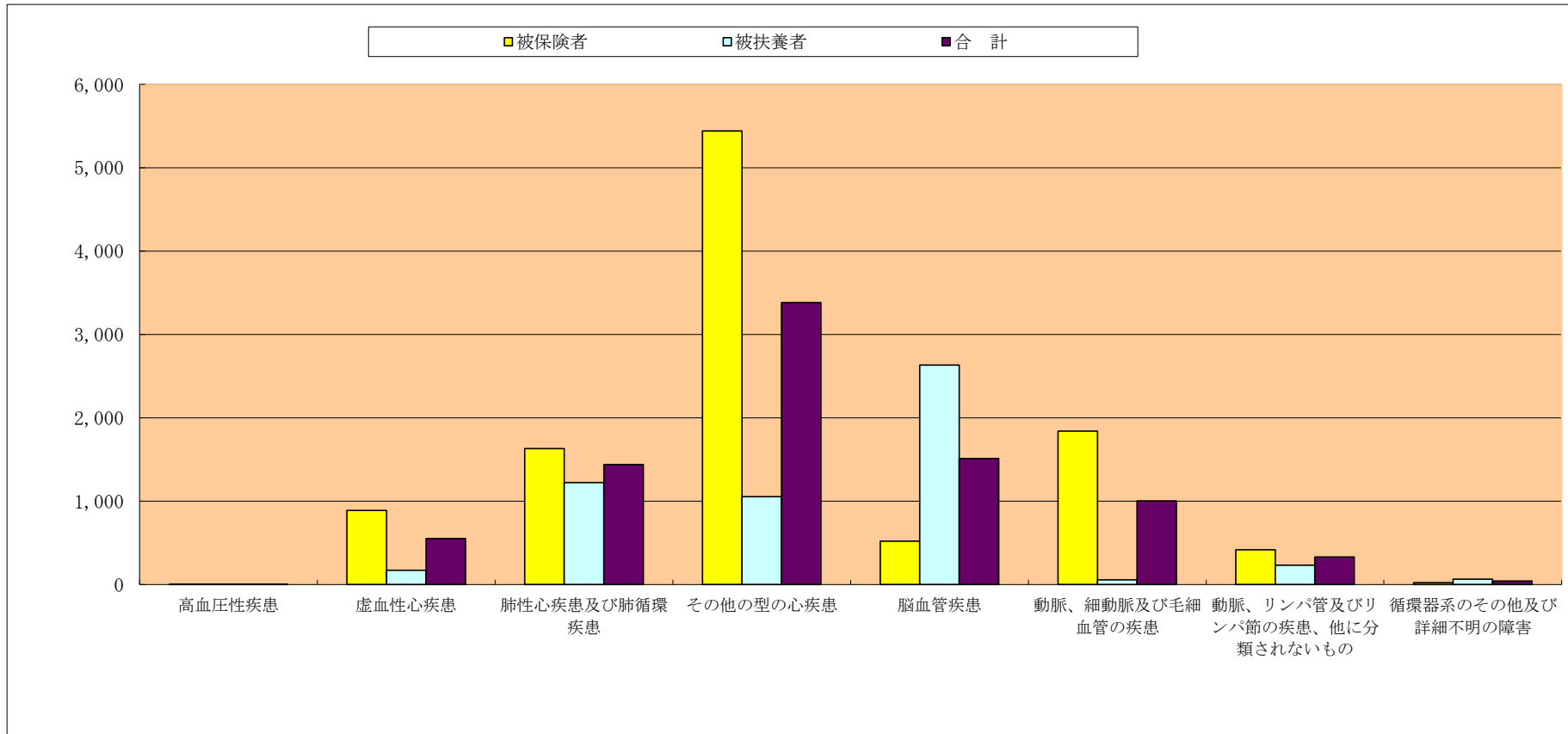
	高血圧性疾患	虚血性心疾患	肺性心疾患及び肺循環疾患	その他の型の心疾患	脳血管疾患	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	動脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	循環器系のその他及び詳細不明の障害
被保険者	8,960	2,770,920	5,087,970	16,969,110	1,621,190	5,739,070	1,298,200	64,890
被扶養者	10,620	475,480	3,371,420	2,908,930	7,255,610	157,920	638,710	177,580
合計	19,580	3,246,400	8,459,390	19,878,040	8,876,800	5,896,990	1,936,910	242,470



## 循環器系疾患一人当たり医療費

(円)

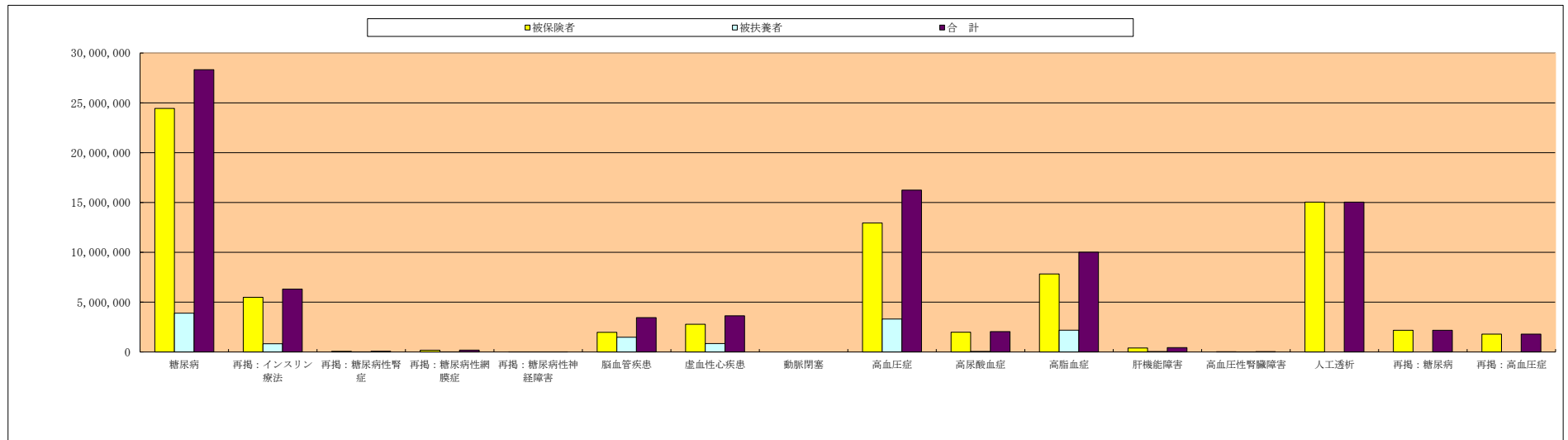
	高血圧性疾患	虚血性心疾患	肺性心疾患及び肺循環疾患	その他の型の心疾患	脳血管疾患	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	動脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	循環器系のその他及び詳細不明の障害
被保険者	3	888	1,631	5,440	520	1,840	416	21
被扶養者	4	172	1,223	1,055	2,632	57	232	64
合計	3	552	1,440	3,383	1,511	1,004	330	41



### 生活習慣病医療費総額

(円)

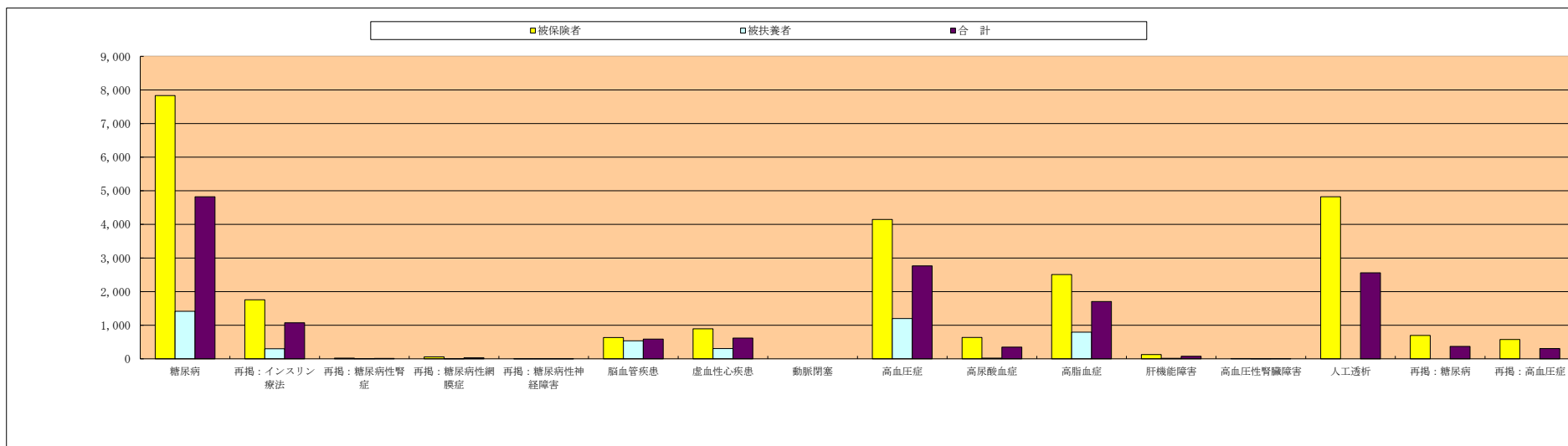
	糖尿病	再掲：インスリン療法	再掲：糖尿病性腎症	再掲：糖尿病性網膜症	再掲：糖尿病性神経障害	脳血管疾患	虚血性心疾患	動脈閉塞	高血圧症	高尿酸血症	高脂血症	肝機能障害	高血圧性腎臓障害	人工透析	再掲：糖尿病	再掲：高血圧症
被保険者	24,439,710	5,483,420	62,260	173,970	2,460	1,970,290	2,783,300	0	12,935,590	1,985,830	7,825,680	396,810	25,770	15,044,580	2,173,760	1,791,600
被扶養者	3,894,790	821,680	13,660	8,300	2,700	1,478,670	846,740	0	3,305,030	55,710	2,187,710	44,420	4,030	0	0	0
合計	28,334,500	6,305,100	75,920	182,270	5,160	3,448,960	3,630,040	0	16,240,620	2,041,540	10,013,390	441,230	29,800	15,044,580	2,173,760	1,791,600



### 生活習慣病一人当たり医療費

(円)

	糖尿病	再掲：インスリン療法	再掲：糖尿病性腎症	再掲：糖尿病性網膜症	再掲：糖尿病性神経障害	脳血管疾患	虚血性心疾患	動脈閉塞	高血圧症	高尿酸血症	高脂血症	肝機能障害	高血圧性腎臓障害	人工透析	再掲：糖尿病	再掲：高血圧症
被保険者	7,834	1,758	20	56	1	632	892	0	4,147	637	2,509	127	8	4,823	697	574
被扶養者	1,413	298	5	3	1	536	307	0	1,199	20	794	16	1	0	0	0
合計	4,822	1,073	13	31	1	587	618	0	2,764	347	1,704	75	5	2,560	370	305

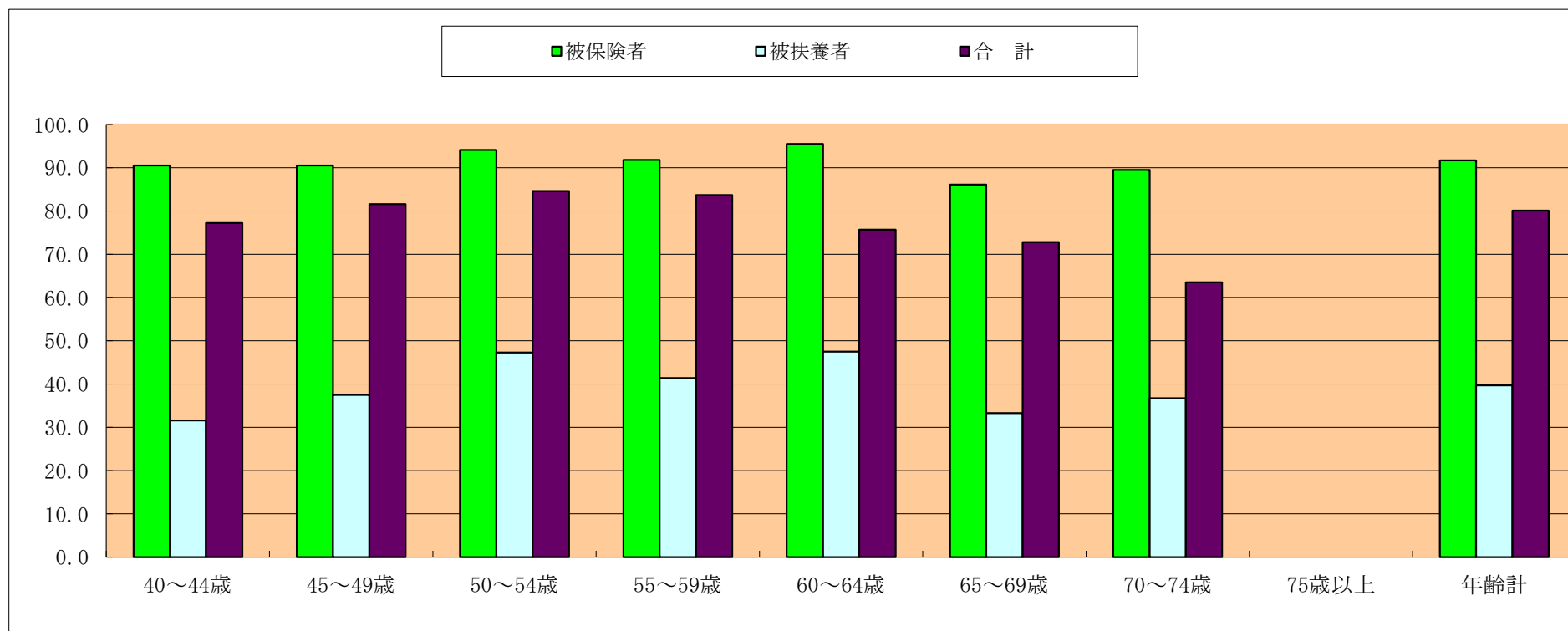


## 特定健診・保健指導の実施状況

特定健診実施率

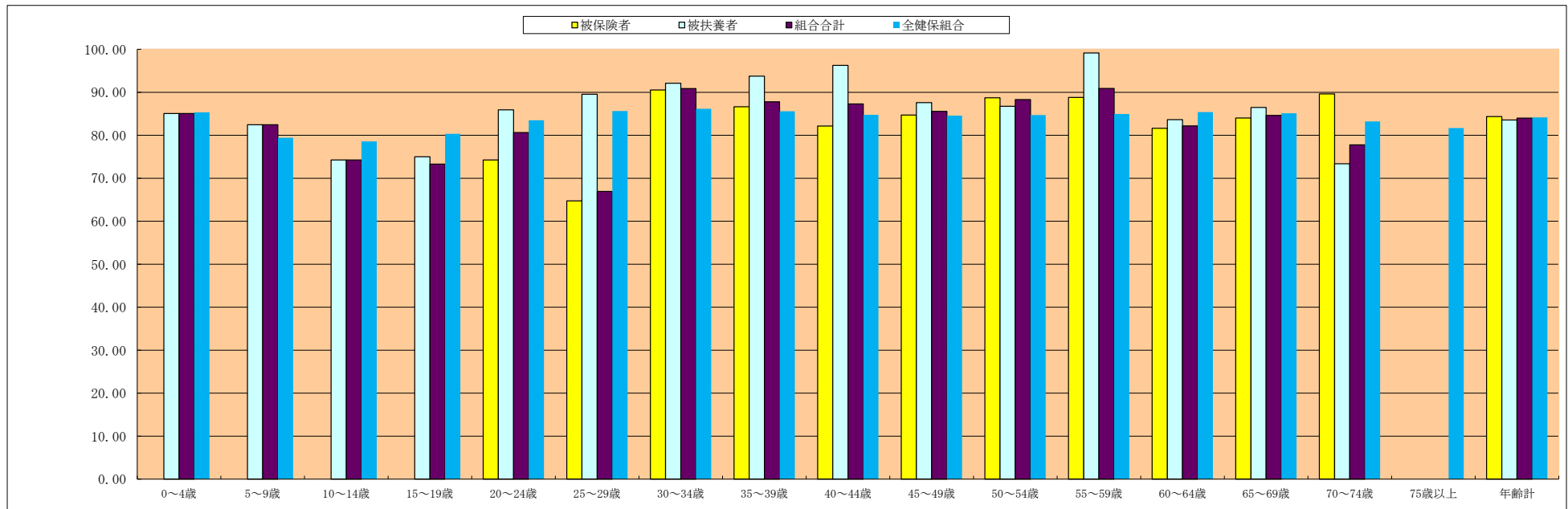
(%)

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	年齢計
被保険者	90.5	90.5	94.1	91.8	95.5	86.1	89.5	0.0	91.7
被扶養者	31.6	37.5	47.3	41.4	47.5	33.3	36.7	0.0	39.7
合計	77.2	81.6	84.6	83.7	75.7	72.8	63.5	0.0	80.1



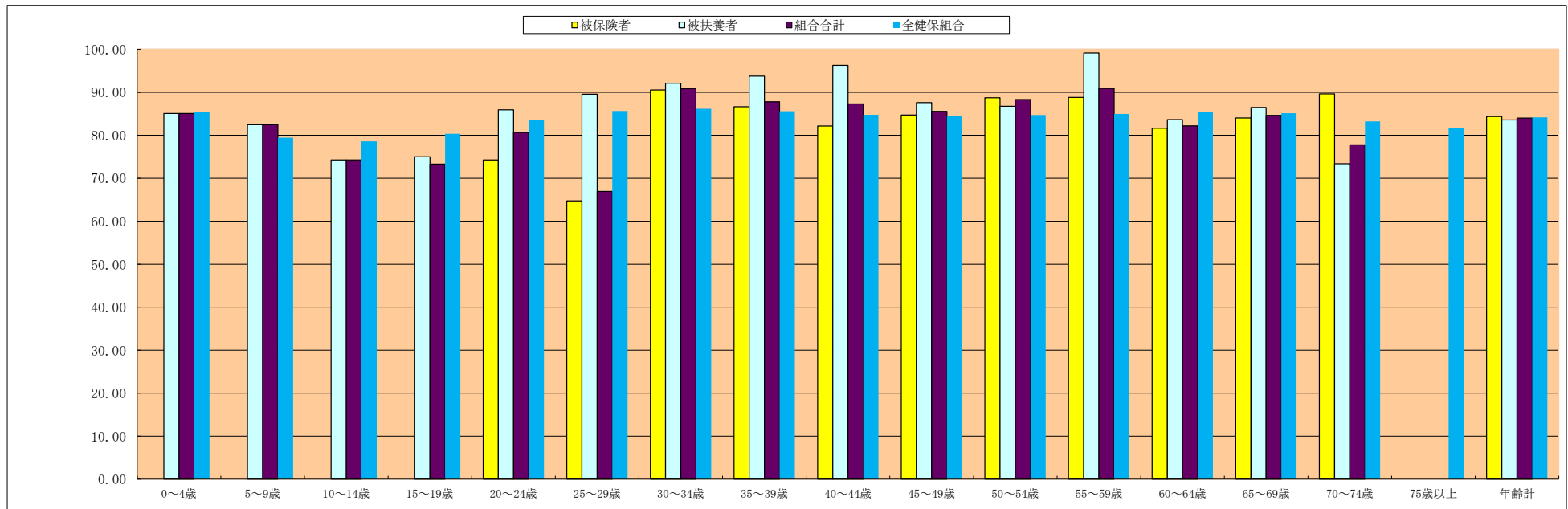
## 後発医薬品の使用状況

	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	年齢計
被保険者	0.00	0.00	0.00	0.00	74.26	64.75	90.55	86.63	82.14	84.71	88.73	88.80	81.63	84.02	89.63	0.00	84.36
被扶養者	85.06	82.46	74.25	75.01	85.92	89.56	92.11	93.75	96.26	87.60	86.76	99.14	83.64	86.47	73.37	0.00	83.56
組合合計	85.06	82.46	74.25	73.30	80.65	66.95	90.88	87.79	87.31	85.57	88.32	90.90	82.19	84.62	77.78	0.00	84.00
全健保組合	85.33	79.43	78.58	80.34	83.49	85.65	86.18	85.60	84.76	84.58	84.71	84.97	85.41	85.11	83.23	81.69	84.17



## 後発医薬品の使用状況

	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	年齢計
被保険者	0.00	0.00	0.00	0.00	74.26	64.75	90.55	86.63	82.14	84.71	88.73	88.80	81.63	84.02	89.63	0.00	84.36
被扶養者	85.06	82.46	74.25	75.01	85.92	89.56	92.11	93.75	96.26	87.60	86.76	99.14	83.64	86.47	73.37	0.00	83.56
組合合計	85.06	82.46	74.25	73.30	80.65	66.95	90.88	87.79	87.31	85.57	88.32	90.90	82.19	84.62	77.78	0.00	84.00
全健保組合	85.33	79.43	78.58	80.34	83.49	85.65	86.18	85.60	84.76	84.58	84.71	84.97	85.41	85.11	83.23	81.69	84.17



## STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ	医療費の総額は「45歳～49歳」が最も高く、次に、高年齢層の「60歳～65歳」、若年齢層の「0歳～4歳」の順に高く、被保険者は「45歳～49歳」、「60歳～65歳」、「50歳～55歳」の順に高く、被扶養者は「0歳～4歳」、「5歳～9歳」、「10歳～14歳」の順位高い。 また、一人当たり医療費は被保険者、被扶養者とも高年齢層の医療費が高く、被保険者は「70歳～74歳」、「65歳～64歳」、「60歳～64歳」の順に高く、被扶養者は「65歳～69歳」、「60歳～64歳」、「70歳～74歳」の順に高い。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>「被保険者」については、事業主等と協働して、節目健診（ドック）、人間ドック等の受診勧奨を行い、また、特定保健指導の指導を受けやすい職場環境の整備をする。</li> <li>「被扶養者」については、受診機会の増を図る</li> <li>加入者等の意識の高揚を図る。</li> <li>若年齢層及び高年齢層の医療費の削減を図る。</li> </ul>	✓
2	ウ, エ	疾病分類別医療費総額は、「新生物」、「呼吸器系患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高く、被保険者は「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に高く、被扶養者は「呼吸器系疾患」、「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。 また、疾病分類別一人当たり医療費についても、医療費は総額と同じ順である。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者に高い「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」は事業主と協働で節目健診（ドック）、人間ドックの受診勧奨を図る。</li> </ul>	✓
3	オ, カ	疾病別医療費の「悪性新生物」の医療費総額では、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「乳房」の順に高く、被保険者では「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「男性生殖器」が高く、被扶養者では「乳房」、「消化器」、「女性生殖器」が高い。 また、悪性新生物の一人当たり医療費についても、悪性新生物の医療費総額と同様となっている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>「悪性新生物」は事業主と協働で節目健診（ドック）、人間ドックの受診勧奨を図る。</li> </ul>	✓
4	キ, ク	疾病別医療費の「循環器系疾患」の医療費総額では、「その他の型の心疾患」、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被保険者では、「その他の型の心疾患」、「動脈、細動脈及び毛細血管の疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被扶養者では、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」、「その他の型の心疾患」の順に高い。 また、「循環器系疾患」の一人当たり医療費についても、循環器系疾患の医療費総額と同様となっている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>「循環器系疾患」は予防対策が可能であり、特定健診データ等からリスク対象者の特定が可能であるため、介入効果が期待され疾患として位置づけ対策を図る。</li> </ul>	
5	ケ, コ	疾病別医療費の「生活習慣病」の医療費総額では、「糖尿病」、「高血圧症」、「人工透析」の順に高く、被保険者では、「糖尿病」、「人工透析」、「高血圧症」の順に高く、被扶養者では、「糖尿病」、「高血圧症」、「高脂血症」の順に高い。 また、「生活習慣病」の一人当たり医療費についても、生活習慣病の医療費総額と同様となっている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活習慣病」は予防対策が可能であり、特定健診データ等からリスク対象者の特定が可能であるため、介入効果が期待され疾患として位置づけ対策を図る。</li> </ul>	✓
6	サ, シ	特定健診の実施率は被扶養者の実施率が低い。また、特定保健指導の実施率は被保険者、被扶養者とも低い。	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業主と協働で節目健診（ドック）や人間ドック並びに特定健診や特定保健指導を受けやすい職場環境や健康的な職場風土の醸成を進める</li> </ul>	✓



7	ス	後発医薬品の使用状況で、被保険者の「20歳～24歳」、「25歳～29歳」の使用状況が低い。	➔	個々の使用薬剤における医療費削減効果の理解を得る。	
---	---	---	---	---------------------------	--

## 基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車のメインディーラーで構成する小規模の総合健保組合。</li> <li>・適用事業数は少なく県内にあるが、販売店等が県内各地及び他県（富山県、福井県）にまたがり多数点在（約180店舗）する。</li> <li>・被保険者の構成は、40歳・50歳代が多く、また、被保険者数は男性が約83%と大多数を占めている。</li> <li>・加入者の平均年齢も年々上昇し、前期高齢者加入者数も年々増加している。</li> <li>・健保組合には医療専門職が不在である。</li> </ul>	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入者の多くが県内各地等に点在する当健保組合では、健保組合が個々の加入者に直接働きかけることを始め、より、効率性・効果性を得るため、事業主と協働（コラボヘルス）が重要。</li> <li>・「健康経営」へのさらなる積極的な参加を勧奨することが必要。</li> <li>・将来の加入者構成を考え、30歳代からの加入者への対策が必要。</li> <li>・予防医学的な知識・経験が必要な場面では、事業主の専門職もしくは外部事業者の積極的な活用を図ることが必要。</li> </ul>

## 保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被扶養者の特定健診実施率が低く、被保険者、被扶養者とも特定保健指導の実施率が低い。</li> <li>・歯科疾患に係る対応がない。</li> <li>・節目健診、人間ドック、脳ドックの受診率が低い。</li> <li>・禁煙対策事業の利用率が低い。</li> </ul>	➔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診、特定保健指導は重症化予防を図るため、事業主と協働で生活習慣病等のリスクを認識させる必要がある。</li> <li>・事業主に対し、積極的に健康づくりに取り組んでいただくための現状把握や課題抽出、または、そのための対策や目標設定をするための支援が必要。</li> <li>・節目健診（ドック）、人間ドック等の受診の促進を図るため、健診内容、対象年齢、受診機関等の見直しを図る必要がある。</li> <li>・歯科検診を歯科医師会との検討を行い積極的に事業を進める</li> </ul>

## STEP 3 保健事業の実施計画

### 事業全体の目的

- 医療費総額では、健保組合全体として「若年齢層」と「高年齢層」が高いことから、若年齢層と高年齢層の医療費を低減させることを目標とする。
- 疾病分類別医療費総額では、「新生物」、「呼吸器系疾患」、「重症急性呼吸器症候群など」が高いことから、この疾患の医療費を低減させることを目標とする。
- 疾病別医療費総額では、悪性新生物では「消化器」が、循環器系疾患では「その他の型の心疾患」が、生活習慣病では「糖尿病」が最も高いことから、この疾患の医療費を低減させることを目標とする。

### 事業全体の目標

- 人間ドックの受診率の向上を図り、併せて医療機関等への受診勧奨等を実施し重症化予防を図り医療費の低減につなげる。
- 節目健診の健診内容、対象年齢、健診機関等の見直しを行い受診促進を図り、併せて医療機関等への受診勧奨等を実施し重症化予防を図り医療費の低減につなげる。
- 若年齢層及び高年齢層に特定した保健事業を定例し、医療費の低減を図る。

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

保健指導宣伝	健康相談、健保制度・保健衛生等に関するパンフレット等の配布
--------	-------------------------------

#### 加入者への意識づけ

保健指導宣伝	機関誌発行
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	前期高齢者向け電話保健指導
保健指導宣伝	重症化予防事業

#### 個別の事業

特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（任継被保険者・被扶養者）
特定保健指導事業	特定保健指導（被保険者）
特定保健指導事業	特定保健指導（任継被保険者・被扶養者）
保健指導宣伝	後発医薬品の差額通知
保健指導宣伝	育児情報誌の配布
疾病予防	ガン（肺、胃、肝、大腸）撲滅健診（節目ドック）
疾病予防	乳ガン検査
疾病予防	人間ドック
疾病予防	脳ドック
疾病予防	歯科健診
疾病予防	インフルエンザ予防接種補助
疾病予防	家族で取り組むかぜ&むし歯予防（つよい子になるぞキャンペーン）
疾病予防	禁煙サポート事業（禁煙外来治療費補助金）

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連			
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画										
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度					
職場環境の整備													アウトカム指標										
保健指導宣伝	1,2,5,6	既存	健康相談、健保制度・保健衛生等に関するパンフレット等の配布	全て	男女	18～74	加入者全員	3	エ,ス	「健康スコアリングレポート」並びに保健衛生等に関するパンフレット等の配布や機関誌に健康相談等の記事を掲載し健康情報の共有を図る。また、ホームページの活用や、各種会議等においても情報発信を行う。	ア,シ	事業所の事務担当者や健康管理事業推進委員等を活用する。	425	-	-	-	-	-	事業主における従業員の健康状況の特徴の認知や、健保組合が実施する必要な健康対策への協力・参加を図る。	医療費の総額は「45歳～49歳」が最も高く、次に、高齢層の「60歳～65歳」、若年層の「0歳～4歳」の順に高く、被保険者は「45歳～49歳」、「60歳～65歳」、「50歳～55歳」の順に高く、被扶養者は「0歳～4歳」、「5歳～9歳」、「10歳～14歳」の順位高い。また、一人当たり医療費は被保険者、被扶養者とも高齢層の医療費が高く、被保険者は「70歳～74歳」、「65歳～64歳」、「60歳～64歳」の順に高く、被扶養者は「65歳～69歳」、「60歳～64歳」、「70歳～74歳」の順に高い。	疾病分類別医療費総額は、「新生物」、「呼吸器系患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高く、被保険者は「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に高く、被扶養者は「呼吸器系疾患」「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。また、疾病分類別一人当たり医療費についても、医療費は総額と同じ順である。		
													継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施				疾病別医療費の「悪性新生物」の医療費総額では、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器、「乳房」の順に高く、被保険者では「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「男性生殖器」が高く、被扶養者では「乳房」、「消化器」、「女性生殖器」が高い。また、悪性新生物の一人当たり医療費についても、悪性新生物の医療費総額と同様となっている。	疾病別医療費の「生活習慣病」の医療費総額では、「糖尿病」、「高血圧症」、「人工透析」の順に高く、被保険者では、「糖尿病」、「人工透析」、「高血圧症」の順に高く、被扶養者では、「糖尿病」、「高血圧症」、「高脂血症」の順に高い。また、「生活習慣病」の一人当たり医療費についても、生活習慣病の医療費総額と同様となっている。
													資料配布・健康相談の開催、「健康レポート」の配布。(【実績値】100% 【目標値】令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)事業所への従業員の健康状況等資料配布(100%)事業所での健康相談の開催(100%)「健康レポート」の送付事業所(100%)										

加入者への意識づけ																																	
保健指導宣伝	5	既存	機関誌発行	全て	男女	18～74	被保険者	1	ス	機関誌「健保だより」を4月「春号」、8月「夏号」として、年2回被保険者全員に会社経由にて配布する。任意被保険者には直送する。	ア,シ	事業所の担当者から被保険者全員に配布できる体制の構築を図る。	1,188	-	-	-	-	-	情報発信、健康意識の醸成を図る。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)													
													発行回数(【実績値】2回 【目標値】令和6年度：2回 令和7年度：-回 令和8年度：-回 令和9年度：-回 令和10年度：-回 令和11年度：-回)-													確実に発刊回数を実施するため。(アウトカムは設定されていません)							
													80	-	-	-	-	-			正しい保険診療の受け方への注意及び健康づくりへの意識の醸成及び保険医療医療費の適正化を図り、さらに、後発医薬品の促進も図る。	後発医薬品の使用状況で、被保険者の「20歳～24歳」、「25歳～29歳」の使用状況が低い。											
発送回数(【実績値】4回 【目標値】令和6年度：4回 令和7年度：4回 令和8年度：4回 令和9年度：4回 令和10年度：4回 令和11年度：4回)-													医療費の削減率(【実績値】- 【目標値】令和6年度：10% 令和7年度：10% 令和8年度：12% 令和9年度：12% 令和10年度：15% 令和11年度：15%)-																				

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連			
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画										
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度					
									アウトプット指標				アウトカム指標										
	2,4,5,6	既存	前期高齢者向け電話保健指導	全て	男女	65～74	基準該当者	1	イ,ウ,エ,オ	委託事業者から該当者あて調査書を送付し、回答があった者に対し電話保健指導を実施する。	ウ,シ	委託事業者の保健師により電話保健指導を実施する。委託事業者との情報の連携を構築する。	継続実施	450	-	-	-	-	-	-	-	「将来医療費の削減」及び「健康長寿の意識付け」。「前期高齢者医療費」の削減。	<p>医療費の総額は「45歳～49歳」が最も高く、次に、高齢層の「60歳～65歳」、若年層の「0歳～4歳」の順に高く、被保険者は「45歳～49歳」、「60歳～65歳」、「50歳～55歳」の順に高く、被扶養者は「0歳～4歳」、「5歳～9歳」、「10歳～14歳」の順位高い。</p> <p>また、一人当たり医療費は被保険者、被扶養者とも高齢層の医療費が高く、被保険者は「70歳～74歳」、「65歳～64歳」、「60歳～64歳」の順に高く、被扶養者は「65歳～69歳」、「60歳～64歳」、「70歳～74歳」の順に高い。</p> <p>疾病分類別医療費総額は、「新生物」、「呼吸器系患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高く、被保険者は「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に高く、被扶養者は「呼吸器系疾患」「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。</p> <p>また、疾病分類別一人当たり医療費についても、医療費は総額と同じ順である。</p> <p>疾病別医療費の「悪性新生物」の医療費総額では、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「乳房」の順に高く、被保険者では「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「男性生殖器」が高く、被扶養者では「乳房」、「消化器」、「女性生殖器」が高い。</p> <p>また、悪性新生物の一人当たり医療費についても、悪性新生物の医療費総額と同様となっている。</p> <p>疾病別医療費の「循環器系疾患」の医療費総額では、「その他の型の心疾患」、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被保険者では、「その他の型の心疾患」、「動脈、細動脈及び毛細血管の疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被扶養者では、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」、「その他の型の心疾患」の順に高い。</p> <p>また、「循環器系疾患」の一人当たり医療費についても、循環器系疾患の医療費総額と同様となっている。</p> <p>疾病別医療費の「生活習慣病」の医療費総額では、「糖尿病」、「高血圧症」、「人工透析」の順に高く、被保険者では、「糖尿病」、「人工透析」、「高血圧症」の順に高く、被扶養者では、「糖尿病」、「高血圧症」、「高脂血症」の順に高い。</p> <p>また、「生活習慣病」の一人当たり医療費についても、生活習慣病の医療費総額と同様となっている。</p> <p>特定健診の実施率は被扶養者の実施率が低い。また、特定保健指導の実施率は被保険者、被扶養者とも低い。</p>
													調査書回収率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：25% 令和7年度：25% 令和8年度：30% 令和9年度：30% 令和10年度：40% 令和11年度：40%)-									電話保健指導実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：10% 令和7年度：10% 令和8年度：12% 令和9年度：12% 令和10年度：15% 令和11年度：15%)-	
													300	-	-	-	-	-	-	-	-		

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
2,4	新規	重症化予防事業	全て	男女	40～74	基準該当者	3	イ,ウ,エ,オ,コ	ア,ウ,カ,シ-			健診結果等から疾患を認識・発見させ受診勧奨や改善を行う。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	健診結果から、隠れ疾患を認識・発見させ、低医療費で済む段階での受診や受診不要な状況に改善させるなどを目標とする。	<p>医療費の総額は「45歳～49歳」が最も高く、次に、高年齢層の「60歳～65歳」、若年齢層の「0歳～4歳」の順に高く、被保険者は「45歳～49歳」、「60歳～65歳」、「50歳～55歳」の順に高く、被扶養者は「0歳～4歳」、「5歳～9歳」、「10歳～14歳」の順位高い。</p> <p>また、一人当たり医療費は被保険者、被扶養者とも高年齢層の医療費が高く、被保険者は「70歳～74歳」、「65歳～64歳」、「60歳～64歳」の順に高く、被扶養者は「65歳～69歳」、「60歳～64歳」、「70歳～74歳」の順に高い。</p> <p>疾病分類別医療費総額は、「新生物」、「呼吸器系患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高く、被保険者は「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に高く、被扶養者は「呼吸器系疾患」「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。</p> <p>また、疾病分類別一人当たり医療費についても、医療費は総額と同じ順である。</p> <p>疾病別医療費の「悪性新生物」の医療費総額では、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「乳房」の順に高く、被保険者では「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「男性生殖器」が高く、被扶養者では「乳房」、「消化器」、「女性生殖器」が高い。</p> <p>また、悪性新生物の一人当たり医療費についても、悪性新生物の医療費総額と同様となっている。</p> <p>疾病別医療費の「循環器系疾患」の医療費総額では、「その他の型の心疾患」、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被保険者では、「その他の型の心疾患」、「動脈、細動脈及び毛細血管の疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被扶養者では、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」、「その他の型の心疾患」の順に高い。</p> <p>また、「循環器系疾患」の一人当たり医療費についても、循環器系疾患の医療費総額と同様となっている。</p> <p>疾病別医療費の「生活習慣病」の医療費総額では、「糖尿病」、「高血圧症」、「人工透析」の順に高く、被保険者では、「糖尿病」、「人工透析」、「高血圧症」の順に高く、被扶養者では、「糖尿病」、「高血圧症」、「高脂血症」の順に高い。</p> <p>また、「生活習慣病」の一人当たり医療費についても、生活習慣病の医療費総額と同様となっている。</p>
対象人数の把握(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：30人 令和7年度：30人 令和8年度：20人 令和9年度：20人 令和10年度：10人 令和11年度：10人)-												電話保健指導実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：30% 令和7年度：30% 令和8年度：40% 令和9年度：40% 令和10年度：50% 令和11年度：50%)-							
個別の事業												11,621,090	-	-	-	-	-		



予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画								
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度			
アウトプット指標												アウトカム指標									
特定健康診査事業	3	既存(法定)	特定健診(被保険者)	全て	男女	40～74	基準該当者	2	イ,ウ,エ,オ,キ	事業主検診データの事業主、健診機関からの提供。人間ドックの受診データの事業主、健診機関からの提供。ガン撲滅健診における特定健診の受診とデータ提供	ア,ウ,カ	事業主、健診機関への提供依頼。委託健診機関からのデータ提供体制の構築。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	特定健診の受診率向上を目指し、生活習慣リスク保有者率及び内臓脂肪症候群該当者割合を減少することを目指す。	特定健診の実施率は被扶養者の実施率が低い。また、特定保健指導の実施率は被保険者、被扶養者とも低い。	
特定健診実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)												生活習慣リスク保有者率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：30% 令和7年度：30% 令和8年度：25% 令和9年度：25% 令和10年度：20% 令和11年度：20%)									
-												内臓脂肪症候群該当者割合(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：20% 令和7年度：20% 令和8年度：15% 令和9年度：15% 令和10年度：10% 令和11年度：10%)									
3	既存(法定)	特定健診(任継被保険者・被扶養者)	全て	男女	40～74	被扶養者,任意継続者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,コ	受診券の自宅への直接送付。被扶養者については、全国巡回健診の実施。節目健診(ドック)の実施。	ア,ウ,カ,キ	集合契約機関での実施。委託健診機関からのデータ提供の体制構築。	継続実施	3,770	-	-	-	-	-	特定健診の受診率向上を目指し、生活習慣リスク保有者率及び内臓脂肪症候群該当者割合を減少することを目指す。	特定健診の実施率は被扶養者の実施率が低い。また、特定保健指導の実施率は被保険者、被扶養者とも低い。	
特定健診実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：50% 令和7年度：50% 令和8年度：55% 令和9年度：55% 令和10年度：60% 令和11年度：60%)												生活習慣リスク保有者率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：30% 令和7年度：30% 令和8年度：25% 令和9年度：25% 令和10年度：20% 令和11年度：20%)									
-												内臓脂肪症候群該当者割合(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：20% 令和7年度：20% 令和8年度：15% 令和9年度：15% 令和10年度：10% 令和11年度：10%)									
特定保健指導事業	4	既存(法定)	特定保健指導(被保険者)	全て	男女	40～74	基準該当者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,コ	事業所への特定保健指導該当者への受診券送付と該当者名簿の送付。健診機関への該当者名簿の送付。	ア,ウ,カ,キ	連合会共同契約健診機関での実施。集合契約の市町村での実施。節目健診(ドック)等の受診時の委託機関での同日保健指導指導の実施。	継続実施	500	-	-	-	-	-	特定保健指導の実施率を向上し、重症化予防のための生活習慣病リスク保有者の生活習慣、健康状態の改善実施者の健康改善を図り特定保健指導対象者割合の減少を目指す。	特定健診の実施率は被扶養者の実施率が低い。また、特定保健指導の実施率は被保険者、被扶養者とも低い。
特定保健指導実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：30% 令和7年度：30% 令和8年度：35% 令和9年度：35% 令和10年度：40% 令和11年度：40%) 実施の促進(実施率30%以上)												特定保健指導対象者割合(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：10% 令和7年度：10% 令和8年度：8% 令和9年度：8% 令和10年度：5% 令和11年度：5%)									
4	既存(法定)	特定保健指導(任継被保険者・被扶養者)	全て	男女	40～74	被扶養者,任意継続者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,コ	特定保健指導受診券を送付。セット券の送付。	ア,ウ,カ,キ	連合会共同契約健診機関での実施。集合契約の市町村での実施。節目健診(ドック)等の受診時の委託機関での同日保健指導指導の実施。	継続実施	790	-	-	-	-	-	特定保健指導の実施率を向上し、重症化予防のための生活習慣病リスク保有者の生活習慣、健康状態の改善実施者の健康改善を図り特定保健指導対象者割合の減少を目指す。	特定健診の実施率は被扶養者の実施率が低い。また、特定保健指導の実施率は被保険者、被扶養者とも低い。	
特定保健指導実施率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：30% 令和7年度：30% 令和8年度：35% 令和9年度：35% 令和10年度：40% 令和11年度：40%) 実施の促進(実施率30%以上)												特定保健指導該当率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：20% 令和7年度：20% 令和8年度：10% 令和9年度：10% 令和10年度：5% 令和11年度：5%)									
-												特定保健指導対象者割合(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：10% 令和7年度：10% 令和8年度：8% 令和9年度：8% 令和10年度：5% 令和11年度：5%)									
保健指導宣伝	2,7	既存	後発医薬品の差額通知	全て	男女	0～74	加入者全員	1	エ,キ	一定額(1千円)以上削減ができる者に対し差額通知を年4回送付する。	ア,シ	事業所へ送付し、事業所から被保険者へ被扶養者分とも配布する体制を構築する。	継続実施	80	-	-	-	-	-	後発医薬品の使用促進、調剤医療費の適正化対策を図るため。	後発医薬品の使用状況で、被保険者の「20歳～24歳」、「25歳～29歳」の使用状況が低い。
通知件数(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：300件 令和7年度：300件 令和8年度：250件 令和9年度：250件 令和10年度：200件 令和11年度：200件) 差額通知の配布(4回/年・300件)												後発医薬品の使用割合(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：80% 令和7年度：80% 令和8年度：85% 令和9年度：85% 令和10年度：90% 令和11年度：90%) 3月診療分で検証。(使用割合85%以上)									
2,5	既存	育児情報誌の配布	全て	男女	0～74	基準該当者	1	キ,ス	出産した被保険者及び出生により被扶養者に認定された子の被保険者に月刊誌「赤ちゃんと！」を1年間配布する。	シ	委託事業者より直接該当者に送付する。	継続実施	720	-	-	-	-	-	次世代の生活習慣病予防(妊娠前、子供の頃からの生活習慣病予防や保険医療費の適正化対策)や健康への意識付けとして。	医療費の総額は「45歳～49歳」が最も高く、次に、高齢層の「60歳～65歳」、若年齢層の「0歳～4歳」の順に高く、被保険者は「45歳～49歳」、「60歳～65歳」、「50歳～55歳」の順に高く、被扶養者は「0歳～4歳」、「5歳～9歳」、「10歳～14歳」の順位高い。また、一人当たり医療費は被保険者、被扶養者とも高齢層の医療費が高く、被保険者は「70歳～74歳」、「65歳～64歳」、「60歳～64歳」の順に高く、被扶養者は「65歳～69歳」、「60歳～64歳」、「70歳～74歳」の順に高い。	

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連					
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画											
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度				
アウトプット指標												アウトカム指標												
送付人数【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：100人 令和7年度：100人 令和8年度：95人 令和9年度：95人 令和10年度：90人 令和11年度：90人-												医療費削減の理解や健康への意識付け広報のため。(アウトカムは設定されていません)												
疾病予防	3	既存	ガン(肺、胃、肝、大腸)撲滅健診(節目ドック)	全て	男女	35～70	基準該当者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ,ス	ア,ウ,カ,シ		継続実施	22,950	-	-	-	-	悪性新生物(ガン)の早期発見、早期治療を図り、併せて、生活習慣病やその他の疾病の早期発見、早期治療を図る。	医療費の総額は「45歳～49歳」が最も高く、次に、高齢層の「60歳～65歳」、若年層の「0歳～4歳」の順に高く、被保険者は「45歳～49歳」、「60歳～65歳」、「50歳～55歳」の順に高く、被扶養者は「0歳～4歳」、「5歳～9歳」、「10歳～14歳」の順位高い。また、一人当たり医療費は被保険者、被扶養者とも高齢層の医療費が高く、被保険者は「70歳～74歳」、「65歳～64歳」、「60歳～64歳」の順に高く、被扶養者は「65歳～69歳」、「60歳～64歳」、「70歳～74歳」の順に高い。					
																						疾病分類別医療費総額は、「新生物」、「呼吸器系患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高く、被保険者は「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に高く、被扶養者は「呼吸器系疾患」「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。また、疾病分類別一人当たり医療費についても、医療費は総額と同じ順である。		
												継続実施						疾病別医療費の「悪性新生物」の医療費総額では、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「乳房」の順に高く、被保険者では「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「男性生殖器」が高く、被扶養者では「乳房」、「消化器」、「女性生殖器」が高い。また、悪性新生物の一人当たり医療費についても、悪性新生物の医療費総額と同様となっている。						
												継続実施						疾病別医療費の「循環器系疾患」の医療費総額では、「その他の型の心疾患」、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被保険者では、「その他の型の心疾患」、「動脈、細動脈及び毛細血管の疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被扶養者では、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」、「その他の型の心疾患」の順に高い。また、「循環器系疾患」の一人当たり医療費についても、循環器系疾患の医療費総額と同様となっている。						
												継続実施						疾病別医療費の「生活習慣病」の医療費総額では、「糖尿病」、「高血圧症」、「人工透析」の順に高く、被保険者では、「糖尿病」、「人工透析」、「高血圧症」の順に高く、被扶養者では、「糖尿病」、「高血圧症」、「高脂血症」の順に高い。また、「生活習慣病」の一人当たり医療費についても、生活習慣病の医療費総額と同様となっている。						
受診率【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：85% 令和7年度：85% 令和8年度：90% 令和9年度：90% 令和10年度：95% 令和11年度：95%)受診の促進(受診率85%以上)												悪性新生物の医療費総額の削減率【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：10% 令和7年度：10% 令和8年度：8% 令和9年度：8% 令和10年度：5% 令和11年度：5%)悪性新生物の医療費総額の10%削減。												
												400	-	-	-	-								

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
3	既存		乳ガン検査	全て	女性	35～70	基準該当者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ス	女性のがん撲滅健診(節目ドック)受診者で希望者全員が委託健診機関に直接申込み受診する。費用の全額補助で実施。	ア,カ	-	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	悪性新生物(乳がん)の早発見、早期治療を図るため。	疾病別医療費の「悪性新生物」の医療費総額では、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「乳房」の順に高く、被保険者では「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「男性生殖器」が高く、被扶養者では「乳房」、「消化器」、「女性生殖器」が高い。また、悪性新生物の一人当たり医療費についても、悪性新生物の医療費総額と同様となっている。
受診率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：50% 令和7年度：50% 令和8年度：55% 令和9年度：55% 令和10年度：60% 令和11年度：60%)・受診の促進。(受診率50%以上。)												悪性新生物(乳がん)の医療費総額の削減率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：10% 令和7年度：10% 令和8年度：8% 令和9年度：8% 令和10年度：5% 令和11年度：5%)悪性新生物(乳がん)の医療費								
												7,200	-	-	-	-	-			



予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
3	既存		人間ドック	全て	男女	35～74	基準該当者	1	イ,ウ,エ,オ,キ,ク,ケ,コ	費用の一部補助にて、35歳以上の被保険者、40歳以上の被保険者・被扶養者を対象として実施する。受診者よりの一部補助の請求。受診結果の提供。	ア,ウ,カ,シ	受診機関は各自の任意の機関で実施。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	特定健診の受診率の向上、健康状態の確認、疾病の早期発見、早期治療を図るため、受診の促進を図り、受診データの提供率100%を目指す。	<p>医療費の総額は「45歳～49歳」が最も高く、次に、高年齢層の「60歳～65歳」、若年齢層の「0歳～4歳」の順に高く、被保険者は「45歳～49歳」、「60歳～65歳」、「50歳～55歳」の順に高く、被扶養者は「0歳～4歳」、「5歳～9歳」、「10歳～14歳」の順位高い。</p> <p>また、一人当たり医療費は被保険者、被扶養者とも高年齢層の医療費が高く、被保険者は「70歳～74歳」、「65歳～64歳」、「60歳～64歳」の順に高く、被扶養者は「65歳～69歳」、「60歳～64歳」、「70歳～74歳」の順に高い。</p> <p>疾病分類別医療費総額は、「新生物」、「呼吸器系患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高く、被保険者は「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に高く、被扶養者は「呼吸器系疾患」「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。</p> <p>また、疾病分類別一人当たり医療費についても、医療費は総額と同じ順である。</p> <p>疾病別医療費の「悪性新生物」の医療費総額では、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「乳房」の順に高く、被保険者では「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「男性生殖器」が高く、被扶養者では「乳房」、「消化器」、「女性生殖器」が高い。</p> <p>また、悪性新生物の一人当たり医療費についても、悪性新生物の医療費総額と同様となっている。</p> <p>疾病別医療費の「循環器系疾患」の医療費総額では、「その他の型の心疾患」、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被保険者では、「その他の型の心疾患」、「動脈、細動脈及び毛細血管の疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被扶養者では、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」、「その他の型の心疾患」の順に高い。</p> <p>また、「循環器系疾患」の一人当たり医療費についても、循環器系疾患の医療費総額と同様となっている。</p> <p>疾病別医療費の「生活習慣病」の医療費総額では、「糖尿病」、「高血圧症」、「人工透析」の順に高く、被保険者では、「糖尿病」、「人工透析」、「高血圧症」の順に高く、被扶養者では、「糖尿病」、「高血圧症」、「高脂血症」の順に高い。</p> <p>また、「生活習慣病」の一人当たり医療費についても、生活習慣病の医療費総額と同様となっている。</p>
人間ドック受診者数(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：250人 令和7年度：250人 令和8年度：300人 令和9年度：300人 令和10年度：350人 令和11年度：350人)受診の促進。(受診者数250名)												特定健診受診率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：85% 令和7年度：85% 令和8年度：90% 令和9年度：90% 令和10年度：95% 令和11年度：95%)基本分析時の特定健診受診率(全体) 79.9%								
													800							

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連						
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画												
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度					
アウトプット指標												アウトカム指標													
3	既存		脳ドック	全て	男女	40～74	基準該当者	1	イ,エ,オ,キ,コ	費用の一部補助にて、40歳以上の被保険者・被扶養者を対象として実施する。受診者よりの一部補助の請求。受診結果の提供。	ア,ウ,カ,シ	受診機関は各自の任意の機関で実施。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	健康状態の確認、疾病の早期発見、早期治療を図るため。	疾病別医療費の「循環器系疾患」の医療費総額では、「その他の型の心疾患」、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被保険者では、「その他の型の心疾患」、「動脈、細動脈及び毛細血管の疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被扶養者では、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」、「その他の型の心疾患」の順に高い。また、「循環器系疾患」の一人当たり医療費についても、循環器系疾患の医療費総額と同様となっている。					
受信者数【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：35人 令和7年度：35人 令和8年度：40人 令和9年度：40人 令和10年度：45人 令和11年度：45人)受診の促進。(受診者数35名)												脳血管疾患の医療費削減率【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：10% 令和7年度：10% 令和8年度：8% 令和9年度：8% 令和10年度：5% 令和11年度：5%)脳血管疾患の医療費総額10%以上削減。													
2,3	新規		歯科健診	全て	男女	18～74	被保険者	1	ウ,オ,ケ	・石川県歯科医師会と委託契約を行い、県内の歯科医師会加入の歯科医院で費用の全額補助で実施。 ・健保組合から事業所へ歯科健診の実施案内を行い、希望者の報告を受け希望者に受診券を送付し、事業所より希望した被保険者に配布する。 ・事業所又は希望者本人が希望の歯科医院に直接申込み受診する。 ・対象者は被保険者全員。	ア,カ,ク	・事業所より受診券の配布や歯科医院への申込みを行うなど、健保組合及び事業所並びに歯科医師会及び歯科医院との連携を図る。	1,750	-	-	-	-	-	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	歯科健診を実施し、全身の病気になるリスクに影響する歯周病等早期発見、早期治療を促進し、健康寿命の延伸につなげる。	医療費の総額は「45歳～49歳」が最も高く、次に、高齢層の「60歳～65歳」、若年齢層の「0歳～4歳」の順に高く、被保険者は「45歳～49歳」、「60歳～65歳」、「50歳～55歳」の順に高く、被扶養者は「0歳～4歳」、「5歳～9歳」、「10歳～14歳」の順位高い。また、一人当たり医療費は被保険者、被扶養者とも高齢層の医療費が高く、被保険者は「70歳～74歳」、「65歳～64歳」、「60歳～64歳」の順に高く、被扶養者は「65歳～69歳」、「60歳～64歳」、「70歳～74歳」の順に高い。
歯科健診受診者数【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：500人 令和7年度：500人 令和8年度：700人 令和9年度：700人 令和10年度：1,000人 令和11年度：1,000人)-												歯科医療費総額の減少率【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：10% 令和7年度：10% 令和8年度：8% 令和9年度：8% 令和10年度：5% 令和11年度：5%)-													
8	既存		インフルエンザ予防接種補助	全て	男女	0～74	加入者全員	1	キ,ス	・健保組合からの通知に基づき、事業所から被保険者への実施方法等の案内を行う。 ・事業所等を通じて受診者よりの一部補助の請求。	ア,シ	・事業所及び被保険者並びに健保組合の連携を図る。	6,000	-	-	-	-	-	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	インフルエンザウィルスへの感染による疾病の重症化予防及び感染の拡大の防止を図るため。	疾病分類別医療費総額は、「新生物」、「呼吸器系疾患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高く、被保険者は「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に高く、被扶養者は「呼吸器系疾患」「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。また、疾病分類別一人当たり医療費についても、医療費は総額と同じ順である。
接種率【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：100% 令和7年度：100% 令和8年度：100% 令和9年度：100% 令和10年度：100% 令和11年度：100%)予防接種の実施。(接種予定人数の100%)												季節性疾患医療費総額の削減率【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：10% 令和7年度：10% 令和8年度：8% 令和9年度：8% 令和10年度：5% 令和11年度：5%)季節性疾患医療費総額10%以上削減。													
													700	-	-	-	-	-							

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連				
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画										
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度			
アウトプット指標												アウトカム指標											
2,4,5	既存		家族で取り組むかぜ&むし歯予防(つよい子になるぞキャンペーン)	全て	男性	2~9	基準該当者	1	ク,ケ,ス	委託事業者より該当者あて冊子等を送付。3ヶ月間(10月~12月)「手洗い・うがい・歯みがき」を実施し、3ヶ月間の達成者に対し達成賞を送付。健康づくり等に関するアンケートの提出も依頼する。	シ	委託事業者を活用し、該当者あて送付する。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	かぜの発症予防や健康づくりを家族で取り組み、併せて健康保険の正しい利用を啓発させる。若年齢層の医療費削減対策。	医療費の総額は「45歳~49歳」が最も高く、次に、高年齢層の「60歳~65歳」、若年齢層の「0歳~4歳」の順に高く、被保険者は「45歳~49歳」、「60歳~65歳」、「50歳~55歳」の順に高く、被扶養者は「0歳~4歳」、「5歳~9歳」、「10歳~14歳」の順位高い。また、一人当たり医療費は被保険者、被扶養者とも高年齢層の医療費が高く、被保険者は「70歳~74歳」、「65歳~64歳」、「60歳~64歳」の順に高く、被扶養者は「65歳~69歳」、「60歳~64歳」、「70歳~74歳」の順に高い。  疾病分類別医療費総額は、「新生物」、「呼吸器系患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高く、被保険者は「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に高く、被扶養者は「呼吸器系疾患」「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。また、疾病分類別一人当たり医療費についても、医療費は総額と同じ順である。		
達成率(【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：20% 令和7年度：20% 令和8年度：25% 令和9年度：25% 令和10年度：30% 令和11年度：30%)達成者数/該当者数												300					-					確実な参加が重要なため。(アウトカムは設定されていません)	

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連		
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画								
													令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			令和11年度	
アウトプット指標												アウトカム指標									
1,2,5	既存		禁煙サポート事業(禁煙外来治療費補助金)	全て	男女	20～74	被保険者	1	オ,ケ,ス	・医療機関で禁煙治療プログラムの5回の診療を終了し、継続禁煙を達成した者に要した費用(自己負担額)の全額を補助。 ・事業所より医師及び事業所担当者の禁煙確認の領収書を添付し請求申請する。	ア,カ	・事業所及び被保険者並びに健保組合の連携を図る。	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	肺がん等の病気になる危険性の縮小及び職場での受動喫煙対策としての、禁煙達成のための支援。また、職場環境の改善を目標とする。	疾病分類別医療費総額は、「新生物」、「呼吸器系患」、「重症急性呼吸器症候群など」の順に医療費が高く、被保険者は「新生物」、「循環器系疾患」、「内分泌・栄養・代謝疾患」の順に高く、被扶養者は「呼吸器系疾患」「重症急性呼吸器症候群など」、「皮膚・皮下組織疾患」の順に医療費が高い。 また、疾病分類別一人当たり医療費についても、医療費は総額と同じ順である。  疾病別医療費の「悪性新生物」の医療費総額では、「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器、「乳房」の順に高く、被保険者では「消化器」、「呼吸器・胸腔内臓器」、「男性生殖器」が高く、被扶養者では「乳房」、「消化器」、「女性生殖器」が高い。 また、悪性新生物の一人当たり医療費についても、悪性新生物の医療費総額と同様となっている。  疾病別医療費の「循環器系疾患」の医療費総額では、「その他の型の心疾患」、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被保険者では、「その他の型の心疾患」、「動脈、細動脈及び毛細血管の疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」の順に高く、被扶養者では、「脳血管疾患」、「肺性心疾患及び肺循環器疾患」、「その他の型の心疾患」の順に高い。 また、「循環器系疾患」の一人当たり医療費についても、循環器系疾患の医療費総額と同様となっている。  疾病別医療費の「生活習慣病」の医療費総額では、「糖尿病」、「高血圧症」、「人工透析」の順に高く、被保険者では、「糖尿病」、「人工透析」、「高血圧症」の順に高く、被扶養者では、「糖尿病」、「高血圧症」、「高脂血症」の順に高い。 また、「生活習慣病」の一人当たり医療費についても、生活習慣病の医療費総額と同様となっている。
参加人数【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：5人 令和7年度：5人 令和8年度：10人 令和9年度：10人 令和10年度：15人 令和11年度：15人)-												喫煙率【実績値】 - 【目標値】 令和6年度：35% 令和7年度：35% 令和8年度：30% 令和9年度：30% 令和10年度：25% 令和11年度：25%)-									

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業  
注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業  
注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認(要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況) ウ. 受診状況の確認(がん検診・歯科健診の受診状況) エ. ICTの活用 オ. 専門職による健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施 キ. 定量的な効果検証の実施  
ク. 対象者の抽出(優先順位づけ、事業所の選定など) ケ. 参加の促進(選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備) コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 就業時間内も実施可(事業主と合意) シ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 ス. その他  
注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 外部委託先の専門職との連携体制の構築 エ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 オ. 自治体との連携体制の構築 カ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 キ. 保険者協議会との連携体制の構築 ク. その他の団体との連携体制の構築  
ケ. 保険者内の専門職の活用(共同設置保健師等を含む) コ. 運営マニュアルの整備(業務フローの整理) サ. 人材確保・教育(ケースカンファレンス/ライブラリーの設置) シ. その他